鍛えぬかれたフォームにこそ、メカの真髄がある

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

東京重機工業株式会社

国際試合開幕にあたりて・荒川清美

ユーゴ、全日本と2戦
1日東京、9日京都で

近代ハンドボールの粋をあつめたといわれるユーゴスラビア・オリンピックチームが、その雄姿を見せる……。

ラブルニッチ、ラザレビッチの両主砲をはじめ、アルスラナジッチ(GK)、ホルバットら文字どおり現代最高のプレイヤー14名(別掲)である。

ユーゴ来日にあたって、日本協会は、何度も暗礁に乗りかけながら実に7ケ月の検討を重ねてきた。

というのは、ミュンヘン・オリンピック出場にあたり、全国のあらゆる関係者からお寄せいただいた御支援に対し、なんとかお礼の気持ちを表したい、というのが田村会長をはじめ、われわれの考えであった。

ミュンヘン大会の決勝直前、私は国際ハンドボール連盟のE・ホルル氏(スイス)や、S・ペライ氏(西ドイツ)を通じユーゴ、チェコ両国協会関係者へ「勝者の日本遠征」を依頼した。

ゴールドメダルチームを招いて類いまれなきその攻守を、多くのかたに見ていただく機会を生むことこそ、協力して下さった皆さんへの無二の贈り物と思ったからである。

勝者・ユーゴは、日本協会の希望を快諾してくれたものの、その受け入れは現状の日本協会の力では〝難事業〟であった。

しかし、会長、副会長の奔走や朝日新聞社などの御理解で実現をみるにいたった。

過去、日本とは1勝1分1敗のユーゴ。ともに栄光のオリンピックで、入賞を心に期しながら、緒戦を交じえたことはすでに御承知のとおりだ。

日本の速攻習得こそ金メダルへの道とみて、4年前、自国の国際トーナメント(タシマイダン・カップ)に日本を招いてから、両国ハンドボール界は急速に親密度を増した。

ヨーロッパではめずらしい直線的な速攻、次々にあみだす独得のデイフェンスシフト、卓抜の個人技……ユーゴハンドボールの強さは、あくことなき研究心にあると云ってよい。

6戦をまじえる日本側も進境いちぢるしいものがある。

しかし、ゴールドメダリストを相手に、簡単に勝利は得られまい。

いかに、彼らの全力を引き出すかがこのシリーズのポイントといえよう。

日本側の健斗なくして、ユーゴの真ずいに触れることはできない。

特に、第1戦(9月1日、東京)最終戦(9日、京都)の全日本戦は、来るべきモントリオール・オリンピックへの第一歩ともいうべき価値ある対戦である。

日本の実力問う機会 ラインハウゼン戦

6年ぶりにヨーロッパから迎える女子チーム、西ドイツのOSCラインハウゼンシリーズも、興味深い展開となろう。

今回の5戦は、日本女子界の最上位にある実業団が、今冬の世界選手権候補を主軸に、満を持しており、日本の実力を問う絶好の機会とみたい。近代ハンドボールの祖国・西ドイツから送りこまれるラインハウゼンのクリーンなプレーは、大きな示唆を与えると思われ、選手たちが、さまざまな環境にありながら、ハンドボールを通じてスポーツに親しむ姿も全国の関係者に感銘を与えよう。

爽秋の訪れを告げるにふさわしいユーゴオリンピックチーム、OSC・ラインハウゼン相次いでの来日は、日本ハンドボール史上に大きな足跡を残すことと信じてやまない。

(日本協会理事長・談・8月5日三重県四日市市で。文責・編集部)

絢爛！ 9月のカレンダー

日	試合
1日(土)	ユーゴ対全日本 (15時30分・東京体育館)(NHKTV15.30~17.00)
2日(日)	ユーゴ対三景 (14時・東京体育館)
4日(火)	ユーゴ対大崎電気 (18時・岩手県営体育館)
6日(木)	ユーゴ対大同製鋼 (18時・愛知県体育館)
8日(土)	ユーゴ対湧永薬品 (17時30分・大阪市中央体育館)
9日(日)	ユーゴ対全日本 (13時30分・京都府立体育館)
10日(月)	ユーゴ帰国(羽田)
13日(木)	ラインハウゼン来日(福岡)
15日(祭)	ラインハウゼン 対 大洋デパート (15時・熊本市体育館)
	全日本学生東西対抗 ~男女~ (13時30分・愛知県体育館)
17日(月)	ラインハウゼン 対 田村紡 (18時・岐阜県民体育館)
18日(火)	ラインハウゼン 対 大崎電気 (18時30分・駒沢屋内球技場)
21日(金)	ラインハウゼン 対 東京重機工業 (18時・駒沢屋内球技場)
22日(土)	ラインハウゼン 対 日本ビクター (15時・水海道二高体育館)
24日(月)	ラインハウゼン帰国(羽田)

「ハンドボール」9月号(第112号)目次

【表紙写真】全日本高校男女ビッグフォアの激突・右上=小松市女×涌谷・右下=湯沢×小倉西、左上=聖光学院工×名城大附、左下=徳山×大分東(8月6日・四日市・撮影・山田真市)

金メダルチーム、颯爽の来日

ユーゴスラビア、全日本などと6試合

ミュンヘンオリンピックで金メダルの栄光に輝いたユーゴスラビア・ナショナルチーム（B・ガシウォーダ団長ら一行18人）は、8月29日夜、羽田空港着のBOAC（英国海外航空）910便で飛来した。5年近い年月をかけた「金メダル計画」の成就によって、いっそうその存在を華やかなものとしているユーゴ。つねに新しい戦術をあみ出し、近代ハンドボール史上ユニークな足跡を残しているユーゴ。日本とユーゴ、過去1勝1分1敗。多くの国々からの招待をことわり、国際ハンドボール界では〝孤島〟ともいうべき日本へその雄姿を運んだのは、たがいに速攻を主武器とし、つねにざん新なプレーの開発を心がける好敵手への関心ともうけとれよう。

迎える日本勢は、4年後のモントリオール・オリンピックに向かい始動直後とあって「ノンタイトル」ながら、斗志はなみなみならぬものがある。

ユーゴの強さ、巧さに注目する一方、日本ハンドボール界の急速なレベルアップを世に問う絶好の機会として、このシリーズへの期待はかってない高まりをみせている。

なお、日本協会は7月末になって、急きょ、全日本との対戦を9月9日午後1時30分から京都府立体育館でも行うことに決めた。また、全シリーズを朝日新聞社が後援する。

ユーゴスラビア来日選手名簿

		年令	身長(cm)	
・団長	B．ガシウォーダ	(48)		
・監督	I．スノイ	(50)		
・コーチ	J．ミリコビッチ	(31)		
・選手				
GK	A．アルスラナジッチ	(29)	189	・
	Z．ゾルコ	(23)	186	・
	Z．ニムス	(23)		不
FP	H．ホルバット	(27)	190	⑭
	B．ボクラヤク	(26)	183	⑯
	M．プリバニッチ	(27)	186	⑫
	D．ラブルニッチ	(27)	192	㉘
	S．ミスコビッチ	(29)	185	⑤
	M．ラザレビッチ	(25)	188	㉗
	P．ファイフリッチ	(30)	180	①
	Z．ミルヤク	(22)	189	⑦
	C．ブガルスキー	(30)	178	・
	M．カラリッチ	(27)	184	②
	Z．セルダルジッチ	(23)		不

・随行記者　T．ミハイロビッチ（40）

・〇内数字はミュンヘンオリンピックでの得点

ズラリ五輪の勇者

日本にヨーロッパのナショナルチーム（男）が姿を見せるのは、西ドイツ（昭31、11人制）、ルーマニア（昭35、同）、スウェーデン（昭46、7人制）についで4度目。

いずれも、日本ハンドボール界に多くの刺激を与えたが、今回のユーゴ来日は、当然のことながら、それらをしのぐ感銘を与えることだろう。

来日選手は、どれをとっても現代最高のプレイヤーである。

日本協会では、層の厚いユーゴ球界だけに、あるいは優勝時のメンバーが入れ替るのではないか、という不安を抱いていたが、負傷と伝えられるN・ポポビッチ（ボラックバンヤ・ルカ。1m81、ミュンヘンで10得点）を欠く程度で、ミュンヘンでの主戦12人が勢揃いし、軍隊に入り、ミュンヘン以降、あまり姿を見せていなかったホルバット（パルチザン・ブジエロバール）も、その斗志に満ちた姿を現すことになった。空前の豪華メンバーだ。

恐怖のL・L砲健在

ヨーロッパの、ましてや金メダルチームの主力ともなれば、大げさに云えば、それは国境をこえてのスターといえる。

とりわけラブルニッチ（クリパヤ・ザビドビッチ）、ラザレビッチ（ロテル・ステルン・ベルグラード）の〝L・L砲〟の猛威は定評がある。各国の花形といえばグルイア（ルーマニア）、シュミット（西ドイツ）、マキシモフ（ソビエト）とたいてい一人の頭抜けたプレイヤーなのだが、ユーゴの場合は、この二人に圧倒的な声援が集る。

ミュンヘンでは、両者合わせて55点（6試合）をたたき出した。この数字はユーゴの総得点（122）の45％にあたる。

ラブルニッチ（左腕）は192cm、91Kの巨漢、すでに112試合の公式国際試合を経験、その得点も384を

全日本代表選手名簿

・監督	北川勇喜	(36)	日本協会技術委員
・コーチ	井上裕人	(34)	大阪イーグルス監督
	大西武三	(27)	日本協会普及指導委員
	細木建夫	(24)	日体大OB
・トレーナー	渡辺慶寿	(37)	日本協会普及指導部長
・マネジャー	川上鏧司	(35)	中大附属高監督

・選手(GK)	年令		身長(cm)	
下里　敏彦	(27.	大崎電気)	184	・
本田　洋	(26.	大阪イーグルス)	179	・
斎藤将一郎	(19.	日体大2年)	186	不
(FP)				
野田　清	(27.	大同製鋼)	169	⑮
藤中　憲二	(25.	大同製鋼)	179	不
中井　武三	(24.	大同製鋼)	180	⑧(病欠)
新実　俊夫	(24.	本田技研)	180	・
佐藤　要二	(24.	本田技研)	182	不
木野　実	(27.	湧永薬品)	182	⑫
飯田　誠行	(28.	大崎電気)	187	⑭
早川　清孝	(27.	大阪イーグルス)	180	・
氷海　正行	(23.	千葉教員)	180	⑤
大江　隆夫	(24.	三菱レ大竹)	170	不
中村　博之	(21.	大阪体大4年)	179	不
夏目　真治	(21.	中京大4年)	181	不
菊池　悟	(20.	早大3年)	186	不
蒲生　晴明	(18.	中大1年)	192	不

・〇内数字はミュンヘンオリンピックでの得点

・不はミュンヘンオリンピック不参加者

マーク。ラザレビッチは学生、188cm、84Kと均整がとれている。公式国際試合出場69回、その得点は183。

老巧なホルバットら

主将格のホルバットは、17才でナショナル入りした名手。これまで公式国際試合の出場は123。ゲッターとしてもゲームメーカーとしても、秀れた動きをみせる。

昨年はホームクラブ「パルチザン・ブジエロバール」をヨーロッパカップで初優勝させ、いっそう声価を高めた。ミュンヘン後、軍隊にとられ、今シーズンはヨーロッパカップにも欠場していた。

ホルバットと並んで、チームを引っぱるのはポクラヤク（ジナモパンセボ）、プリバニッチ（パルチザン・ブジエロバール）、ファイフリッチ（RK・クルベンカ）、ミスコビッチ（RK・クルベンカ）らだ。各選手とも、攻守ソツのないオールラウンドタイプ。ビッグゲームでユーゴが勝利をあげる時は、必ず彼らの地味な力がモノを云っているという。

ブガルスキー（RK・クルベンカ）は30才のベテラン、唯一人の170cm台であまり公式国際試合の経験もない。策戦面での参謀格なのだろうか。

ミュンヘンオリンピックの表彰式，金メダルを胸に高らかに国歌を唱うユーゴスラビアの選手たち（西ドイツ「週刊ハンドボール」誌から）

注目の新鋭攻撃陣

若手陣も多彩だ。なかでも、オリンピックで「あのような選手がいるとは知らなかった」と日本チームを驚ろかせた左腕・ミルヤク（マドベスカーク・ザグレブ）は注目の的。練習では1m20のバーをとびこしながらシュートを放つというジャンプ力を活かし、すい星のように現れたホープで、おそらく今回の遠征あたりから、彼をエースに仕立てたフォーメーションプレーが試みられるのではなかろうか。

ミュンヘン大会で未登録のGKニムス、セルダルジッチについては、日本協会でもほとんど資料がない。セルダルジッチは、今春の第5回世界学生（ユーゴは3位）の代表に6試合で9ゴールした同名の選手がおり、おそらく同一人だろう。

なお左腕は本誌の調べではファイフリッチ、ラブルニッチ、ポクラヤク、ミルヤクの4選手。

アルスラナジッチ登場

GK陣はアルスラナジッチ（ボラック・バンヤ・ルカ）とゾルコ（GRK・ザグレブ）、ニムスの3人。考巧と新鋭の組み合せだ。

アルスラナジッチは豹の異名をもつ名手で、彼が登場すると大歓声があがる風景は、昨秋、日本のファンにもテレビで紹介され、御存知のかたも多いだろう。「いったい、どこが巧いのか判らない」と日本のある選手はいうがビッグゲームほど、堅い守りを見せ、絶妙のカンがさえる。

ゾルコは上り坂の選手。世界のナンバーワン・ペヌ（ルーマニア）を抜くのは彼だろう、という評判もあるほどだ。今シーズンからゾルコが正GKになるのではなかろうか。ニムスは世界学生代表。

広く深い底辺誇る

ところで、ユーゴが、世界のハンドボール界の最上位へ顔を並べはじめたのは、そう遠い昔のことではない。

協会の創立は一九五〇年（昭25）で、世界選手権（男）の成績も第3回（昭33）8位、第4回（昭36）順位なし（9～12位）、第5回（昭39）6位、第6回（昭42）7位、第7回（昭45）3位である。しかし、第5回大会で、明きらかに、ミュンヘンを狙う陣容を布いて3

位に組いこみ、ヨーロッパの一部専門家たちは、その時点で、早くも「ミュンヘンの金メダルはユーゴ」と云っていたほどだ。

現在の競技人口はIHF（国際ハンドボール連盟）の資料（昨年11月）によると男子二万四千六百女子約一万三千、ジュニア（男女計）が約三万といわれており、他のヨーロッパ諸国と同よう14クラブによる全国リーグを頂点に、深く広い底辺が築かれ、その数はシニア、ジュニア合わせて120リーグと伝えられる。

ハンドボール研究の熱心さは、列国をしのぎ、特に、その「ハンドボールスクール」は今や国際的に年中行事化している。

また、ユーゴトロフィー（別名男子はタシマイダントーナメント女子はザグレブトーナメント）をはじめ国際トーナメントの開催にも積極的で、その都度、無名の新人をデビューさせたり、ざん新な戦法を展開して話題を集める。

最近ではラザレビッチやミルヤクの登場がそうだし、策戦面ではかつての「3・2・1ディフエンス」、ミュンヘンでの「変形5・1（シングル・ウィングシフト）」などが代表的な例だ。

ミュンヘン後も好調

ミュンヘン優勝後における動きは、むしろ地味で、東ドイツとの招待試合を1勝1分けで終ったほか、主なトーナメント出場は、白国のリュブリアナカップ(3月)、ビトラ大会（5月）程度。

しかし、リュブリアナではオリンピック決勝の相手チェコを再び破ったほか、デンマーク、西ドイツを連破して優勝、ビトラでは東ドイツ、ルーマニアなどを制し首位、堂々たる貫録ぶりだ。

主戦メンバーは、来日の顔触れとほとんど同じ、リュブリアナの時はラブルニッチ、ラザレビッチのほかプリバニッチが絶好調だった。（6月のユーゴトロフィーの記録は未着）

モントリオールへの〝出発〟

今回の来日は、ミュンヘン－モントリオールの「オリンピック2連覇」という大野望へのスタートとなるもので、それだけに主戦メンバーに予想されるGKゾルコ、ラザレビッチ、ミルヤク、セルダルジッチら若手のプレーは迫力に満ちたものとなろう。

監督にはいぜんI・スノイ氏が名を出しているが彼は実務面の有力者である。実戦面での指揮をつとめミュンヘン優勝のかくれたヒーローとなった名コーチ、V・ステンツエル氏は、西ドイツの「フエニックス・エッセン」のコーチに就いたという風聞が事実のようで、今回はリストに加っていない。

代わって若手のJ・ミリコビッチ氏がさい配を揮うが、その手腕は、このシリーズのみものの一つ。

ユーゴではハンドボールは Komet と呼ばれ、国内の関心は高く、オリンピック優勝でいっそうその人気は高まった。もちろん、来春2月の第8回世界男子選手権（東ドイツ）では、最有力優勝候補である。

女子も、近年急速にレベルアップ、世界選手権では第3回(昭40)第4回（昭46）に連続準優勝、今冬12月、第5回大会を自国で開く。

満を持す全日本、有力実業団

日本勢では、やはり第1戦、最終戦の全日本が焦点。本誌前号既報のとおりミュンヘン代表9人に佐藤（本田技研）、大江（三菱レ大竹）と学生界から5人の大型選手を加えた。

8月27日から茨城県笠間市で仕上げの合宿練習をつみ、この大敵へ挑む。荒川理事長は「勝敗はあくまで〝結果〟の問題。ユーゴが目の色変えて戦うような展開を望みたい」といっているが、北川監督は「1勝1敗が目標」と強気。

全日本にとって残念なのは中井（大同製鋼）が盲腸手術後で出場できそうにないことだ。

単独チームでは、積極プレーを身上とする大同製鋼（愛知）が期待の一番手。4月のギョッピンゲン（西ドイツ）戦で見せた粘りがでると面白い。三景(東京)、大崎電気(埼玉)、湧永薬品（大阪）はいずれもスピードと技巧が看板で全日本級を主軸に、そのゆさぶりがどこまで通じるか興味をひく。

なお、TV中継は第1戦(東京)がNHK総合、最終戦（京都）が朝日放送（ABC）系全国ネットの予定。

日本、ユーゴ五輪の成績

◇ユーゴ・予選リーグD組

ユーゴ 20－14 日本
ユーゴ 25－15 アメリカ
ユーゴ 18－16 ハンガリー

▽準決勝リーグ

ユーゴ 24（10－8, 14－7）15 西ドイツ
ユーゴ 14（9－9, 5－4）13 ルーマニア

▽決勝

ユーゴ 21（9－11, 12－5）16 チェコ

【ユーゴの得点】ラザレビチ6、ポクラヤク4、ラブルニッチ、ミルヤク、ポポビッチ各3、ホルバット2

◇日本・予選リーグD組

ユーゴ 20－14 日本
ハンガリー 20－12 日本
日本 20－16 アメリカ

▽9～12位決定戦予備戦

ノルウエー 19－17 日本

▽11・12位決定戦

日本 19（8－6, 11－12）18 アイスランド

金メダル計画をねっていたユーゴが、他のヨーロッパの強豪にない特色を身につけようと白羽の矢を立てたのが「日本の速さ」である。日本が44年、ヨーロッパ遠征するのを聞きつけて、絶好の機会とばかりにタシマイダン・カップへ招き初めて顔を合せた。大激戦の末、19―18で日本が勝ったが、60分間両国走りどおしの試合は、パワーで押しまくるセットオフェンスを見なれたファンを驚ろかし、このニュースは、ヨーロッパのハンドボール界に大きな反響を呼んだ。同時にそれは日本への評価を高めることにもなった。

昭和45年の第7回世界選手権（フランス）で日本はユーゴと予選リーグと同組となり、17―17の引き分け、タシマイダンでの勝利をフロックと見ていた関係者に改めて日本の進境を示した。

そしてミュンヘン。またしても同組となり「ユーゴ絶対有利」という内外の評判をよそに、日本はユーゴ戦に照準をあてて臨んだのである。過去1勝1分の

攻撃的ディフェンスがカギ
～日本、積極プレーに活路～

自信によるものだったが、試合が始ってみると、ユーゴは、まるで日本ベンチを皮肉るかのように日本の主武器・スカイプレーを成功させ、速攻を連発させたのだ。

3年の間に日本戦法の特色を自からの攻撃力に同化させ優勝を遂げたユーゴ、日本は追ろ立ち場になった。

大きなステップからドリブルを有効に用いながらディフェンスを切り崩してくる独得のセットプレー、巨砲に球を集めてのロングシュート攻法などヨーロッパ特有のプレー、スピード豊かなユーゴの多彩な攻撃に対して日本は大課題といわれる〝攻撃的なディフェンス〟でどこまで対抗できるか。受け身の守りではひとたまりもあるまい。長身選手のふところにとびこみ、詰めに詰めたマークは、体力の消もうもはげしい。しかし、このプレーを成功させなくては、日本は、世界の上位へ進出できない。

ミュンヘンの主力プラス大型新人、モントリオールへ向かって、積極的な試合を期待したい。

日本・ユーゴ過去の対戦

◇第1戦・昭和44年6月28日・ザビドビッチ（第9回タシマイダンカップトーナメント第2戦）

日本 19（6―10、13―8）18 ユーゴ

◇第2戦・昭和45年2月28日・アジェン（第7回世界男子選手権予選リーグB組第2戦）

日本 17（9―7、8―10）17 ユーゴ

得	【日本】		【ユーゴ】	得
0	本田	GK	コスティック	0
0	下里	GK	ヤクセコビック	0
4	木野	FP	ザグメイスター	6
1	江名	FP	ボルバト	0
6	近森	FP	ラブルニッチ	1
0	近藤	FP	ポポビッチ	3
3	飯田	FP	ポクラヤク	4
3	野田	FP	ラザレビッチ	3
0	竹野	FP	カラリク	0
0	東	FP	シルコビッチ	0
0	早川	FP	プリバニッチ	0
0	藤中	FP	ブガルスキー	0
17	（4）	7MT	（4）	17

◇第3戦・昭和47年8月30日・ギョッピンゲン（ミュンヘンオリンピック予選リーグD組第1戦）

ユーゴ 20（9―7、11―7）14 日本

得	【日本】		【ユーゴ】	得
0	本田	GK	アルスラナジッチ	0
0	下里	GK	ジビコビッチ	0
3	木野	FP	プリバニッチ	1
2	近森	FP	ホルバト	3
4	野田	FP	ラブルニッチ	4
2	飯田	FP	ミルヤク	2
2	有永	FP	ポプラヤク	4
0	氷海	FP	ラザレビッチ	3
1	中井	FP	カラリク	0
0	早川	FP	ビドビッチ	0
0	新実	FP	ミスコビッチ	2
0	佐々木	FP	ポポビッチ	1
14	（3）	7MT	（2）	10

不参加の五輪代表　ミュンヘンオリンピックの優勝メンバーは16名（GK3、FP13）だったが、日本協会側が招待条件を14選手に縮少したことなどもあって、次の4選手が姿を見せていない。

ポポビッチ、ジブコビッチ（GK）、セレク、ビドビッチ。このほかステンツエル・コーチ。

審判員は同行せず　日本協会は、今回のユーゴ来日にユーゴ協会の公式国際審判員の滞同を望んでいたが、実現しなかった。なお、使用球は全試合日本製。

全日本男子コーチ陣決定

ユーゴと対戦する全日本男子コーチ陣の指名を一任されていた北川勇喜監督は、8月8日、荒川理事長に本誌2頁所報のようなスタッフを報告、日本協会も8月25日の月例常務理事会で承認した。

なお、48年度ナショナル（世界選手権アジア予選候補）の詳細は、すべてユーゴ戦後に話し合われる。

全勝めざせ日本勢

老巧なラインハウゼン（西ドイツ女子）

ユーゴスラビア・オリンピックチームを追うように来日するのが西ドイツ女子の名門「ラインハウゼン・オリンピックスポーツクラブ」（OSC・ラインハウゼン）＝写真。

ヨーロッパから女子チームが来日するのは、42年9月の「西ドイツ選抜」についで6年ぶり2度目

世界選手権を4ケ月後に控えて日本勢は、全日本候補選手を軸とした単独実業団が、9月15日の大洋デパート戦を皮切りに、5試合を行う。レベルアップいちぢるしいといわれる国内女子界だけに勝ちこし、などと云わず、全勝を目指しての健斗が内外から期待されている。

ニーデルハイン地区の女王

OSC・ラインハウゼンは、今シーズン（47年秋〜48年春）、西ドイツ西部のニーデルハイン1部リーグ（9チーム、2回戦制）で11勝2分2敗で首位、各地の1部リーグ勝者を集めた対抗選手権（4チームのリーグ）では1勝1分1敗で優勝を逸し、西ドイツ選手権への出場は成らなかったが、名門の名にふさわしい成績を残している。西ドイツチャンピオンのアイントラクト・ミンデンとは8—11、去年はイスラエルナショナルも降している。

しかし、近代ハンドボールが、ドイツの女子スポーツとして発達した由緒ある歴史をもちながら、西ドイツの実力は、必しも世界に君臨するほどではなく、世界選手権（7人制）における過去4回の順位をみても3、8、3、5位。西ドイツをはじめ中欧諸国では女子のスポーツは〃健康〃〃美容〃が第一の目的で競技・勝負は二の次だからだ。

西ドイツの女子クラブ数は約三千二百、競技人口は四万四千と、いずれも世界最高でいながら、男子のような「全国リーグ」（ブンデス・リーガ）が組織されていないのも、ここらあたりに起因しているとみられる。

7人が奥さん選手

来日16選手のうち7選手が奥さん、ゲールテン、ヴインクラーは二人の子供がおりヴィーゼ、ステケンブロックもママさん。チームの平均年令は二六・七才と高い。

西ドイツ球界に詳しい光島磯雄氏（日本協会国際担当常務理事）は「日本側の5連勝有望」という。

しかし、新シーズン開幕を一ケ月後にして、ぶざまな成績では帰れぬだろうし、西ドイツナショナルのGKゲールテン、チェコナショナルに居たクーツエローワ、オランダナショナルの経験をもつリートホーベムらを攻守の要に配すほか西部選抜軍に4人、地域選抜軍に7人が選ばれるなどしており、1m80のコールテ、唯一の10代シュースターなど注目に価するプレイヤーも多い。

OSC・ラインハウゼン 来日選手名簿

・団　　長　F. a・d・グラーペン
・監　　督　F. a・d・グラーペン
・助 監 督　H. ゲールテン
・トレーナー　H. ボークホルト

・GK		cm	kg	競技歴
G. ゲールテン	(26)	167.	58	10年
H. メハング	(21)	164.	56	6

・FP		cm	kg	競技歴
L. クーツェローワ	(27)	168.	60	12
A. コールテ	(30)	180.	65	14
R. リートホーベム	(32)	168.	73	22
D. ボークホルト	(30)	165.	58	16
A. ヴィーゼ	(27)	166.	57	9
H. バーテルス	(28)	160.	52	10
E. ヴィンクラー	(32)	176.	64	7
M. a・d・グラーペン	(24)	168.	57	9
G. シュースター	(19)	165.	60	10
U. シュトリービッシ	(31)	165.	60	14
C. ステファーン	(20)	175.	78	2
I. ヘィア	(29)	167.	64	16
M. ステケンブロック	(29)	170.	62	13
G. ゾーゼッティ	(22)	167.	64	6

名城大附属、小松市女に初の栄冠

第24回全日本高校選手権は８月１日の開始式で幕をあけ，２日から６日間，炎天下の三重県四日市高グランドに男女各49校が参加して華々しく行われた．

史上初の男女全都道府県出場，「燃えよ若人」のスローガンにふさわしく次代を荷う鳳雛の争いは結局，男子は名城大附属（愛知），女子は小松市女（石川）の初優勝で幕を閉じた．男女を通じ北信越地区・石川代表の優勝はいずれも初，男子で愛知代表の優勝は８年ぶり13度目．

来年の第25回大会は８月，福岡県北九州市で開かれる予定．

第24回全日本高校選手権

男子

生駒、慶応を一方的
室蘭東は矢板中央に敗る

▽１回戦

金沢泉丘（石川）15（7－6　8－5）11 中村（高知）

両ＧＫの堅守で緊迫した試合が演じられたが、後半、金沢はポストから得点機をつかみ制勝した。

仙台育英（宮城）12（4－3　8－5）8 小杉（富山）

前半は互角だったが、仙台は後半、相手守備陣の荒さをついて着々と加点、押し切った。

三本松（香川）18（6－4　12－7）11 児島（岡山）

三本松は多彩な攻撃でチャンスを活かし、三宅の強打に頼る児島を突きはなした。

大分東（大分）11（7－1　4－4）5 浦和市南（埼玉）

浦和は後半こそ互角に試合を進めたが、前半は大分東の早いボール廻しに圧倒され敗退。

岩国（山口）14（9－2　5－3）5 口加（長崎）

岩国は巧みにショートパスをつないで口加守備陣を崩し、一方的な試合運びとなった。

清水市商（静岡）17（6－7　11－5）12 浜田水産（島根）

浜田は前半押し気味ながら、主導権までは握れず、後半になると清水が得意の速攻で快勝した。

名城大附属（愛知）27（13－8　14－4）12 日川（山梨）

名城が前評判どおりの力と技をみせたため、日川は善戦にとどまった。

平安（京都）12（7－2　5－8）10 佐賀商（佐賀）

ともに決め手に欠けたが、平安は前半堅実に得点してリードを奪い、佐賀商の追いこみをかわした。

八幡工（滋賀）17（8－2　9－4）6 知念（沖縄）

知念は金城幸秀のリードで相手をゆさぶろうとしたが、八幡守備陣は固く切り崩せなかった。

呉宮原（広島）9（6－4　3－5：0－0　0－0）9 大石田（山形）

引き分け。抽せんの結果、呉宮原の勝ち。

シーソーゲームの末、延長にもつれこんだが、共に決定力を欠き特に大石田は再三の逸機が痛い。

国立（東京）15（5－2　10－1）3 羽水（福井）

国立は後半、高橋―岸野のコンビプレーで、パスミスの多い羽水を押しまくった。

生駒（奈良）19（12－4　7－4）8 慶応（神奈川）

生駒は生駒、北野が大量点を奪い快勝した。慶応は優勝候補の一角にあげられていたが、動きが鈍く、期待はずれだった。

矢板中央（栃木）14（5－3　9－1）4 室蘭東（北海道）

ポストを多用した同テンポながら、後半になると矢坂が、疲れののぞく室蘭を攻めたてた。

青森（青森）8（3－3　5－3）6 四日市工（三重）

青森は最後の２分間に走り勝って決勝点をあげた。四日市工は前半のチャンスを活かせず惜敗。

鹿児島工（鹿児島）20（11－5　9－6）11 倉吉工（鳥取）

鹿児島は相手の凡失をついて吉元らが矢次ばやにポイント、倉吉は反撃の機会をつかめなかった。

水俣工（熊本）10（6－3　4－3）6 清水（千葉）

勝負を分けたのはディフェンス力だ。清水は相手ゴール前の動きに鋭さを欠いた。

武庫工（兵庫）9（2－4　7－4）8 柏崎工（新潟）

リードされた武庫は後半になるとようやく動きが滑らかになり、浅野一人に頼る柏崎を打楽った。

岩国、抽せん負けの不運
花巻北、清水市商を制す

▽２回戦

花巻北（岩手）10（5－5　5－4）9 清水市商

立ちあがり２－０とした清水だが、その後はミスが多く花巻北につけこまれた。

得点のわりに盛りあがらず。高校生らしい若さと力が欲しかった

八幡工 8（3－2　5－3）5 富岡（群馬）

両チームともセットからの得点で一進一退の試合運びであったがわずかにチャンスにおける確実度という点で八幡工が優り、富岡はずるずると押し切られた。

名城大附 12（5－3　7－2）5 池田（徳島）

池田の健斗はみごとだった。スピードでは名城に劣らず前半は勝機もあったのだが後半になると突進力の差が現れた。後半開始が、降雨で55分遅れたのは珍しい。

生駒 18（9－1　9－1）2 都城工（宮崎）

生駒は速攻、セットを使い分ける多彩な攻撃でリード、一方の都城はポストから反撃を狙ったが、無理な態勢のため、得点に結びつかなかった。

初芝（大阪）12（8－0　4－5）5 呉宮原

呉宮原は初芝の一線防禦を突破できず前半はついにノーゴール。この間に初芝は速攻などで加点した。後半、呉宮原はようやくポイントしはじめたが遅かった。

笠間（茨城）14（6－3　8－4）7 平安（京都）

笠間の順当勝ち。平安は攻守とも特色がなく、変化に乏しかった。

雨中という悪条件を割り引いても、両チームとももう少し多彩なプレーが出来なかっただろうか。

屋代（長野）12（4－7　5－2：1－0　2－1）10 鹿児島工

同型の試合。屋代は後半粘りを

発押して劣勢をばん回、延長に入ってからも、その勢いをつづけて完全にペースを握った。鹿児島工は、後半の貧攻が悔やまれよう。

津　工（三重）8（2—1　6—6）7　矢板中央

雨のため配球が思うようにいかず前半は盛りあがらなかった。後半やっと動きが速くなり接戦を演じたが、結局、津工が前半の僅少差を守り切った。

小倉西（福岡）12（7—3　5—2）5　国　立

小倉西は早いパスとブロックによる切りこみを活かし、国立が守りを沈めると長身者がロングをとばしてけん制するという巧みなチームプレーで勝利を握った。

水俣工 11（1—0　10—2）2　松山北（愛媛）

前半は水俣工・宮山の1点だけ。後半になると、キメの細かさ、荒さが対照的となり、水俣工がチャンスを確実に活かした。松山北はツキがなく実力以下の試合ぶり。

中大附属（東京）26（15—6　11—7）13　金沢泉丘

中大は佐藤（全日本ジュニア）の13得点をはじめ、全員のむらのない攻撃力で金沢を圧した。金沢もセット、7MTでポイントしたが力の差ははっきりしていた。

大分東 21（8—4　13—4）8　御坊商工（和歌山）

大分は相手ゴール前で多彩な変化攻撃をみせ、フリースローからチャンスをつかむのも巧かった。

歴代優勝校

回	年	（男子）	（女子）
①	昭25	足利（栃木）	操山（岡山）
②	昭26	桜台（愛知）	青陵（岡山）
③	昭27	桐生工（群馬）	寝屋川（大阪）
④	昭28	桜台	稲沢（愛知）
⑤	昭29	桜台	寝屋川
⑥	昭30	桜台	明善（福岡）
⑦	昭31	桜台	寝屋川
⑧	昭32	桜台	水海道二（茨城）
⑨	昭33	清水市商（静岡）	寝屋川／熊本市立（熊本）
⑩	昭34	中京商（愛知）	熊本市立
⑪	昭35	中京商	熊本市立
⑫	昭36	中京商	半田（愛知）
⑬	昭37	桜台	静岡城北（静岡）
⑭	昭38	桜台	静岡城北
⑮	昭39	明星（東京）	栃木女（栃木）
⑯	昭40	桜台	静岡城北
⑰	昭41	明星	秋田和洋女（秋田）
⑱	昭42	明星	花巻南（岩手）
⑲	昭43	下関中央工（山口）	菊池農（熊本）
⑳	昭44	下関中央工	新居浜市商（愛媛）
㉑	昭45	新居浜工（愛媛）	水海道二
㉒	昭46	湯沢（秋田）	山陽女（広島）
㉓	昭47	中大附属（東京）	深谷女（埼玉）
㉔	昭48	名城大附（愛知）	小松市女（石川）

御坊は、守りにもう一つ粘りがなく完敗だった。

県岐阜商（岐阜）16（9—5　7—6）11　仙台育英

先制点は仙台があげたが、岐阜はスピード豊かな攻撃でリードを奪いかえした。後半、仙台もよく追いあげたが、終盤再び岐阜の速攻をうけて点差を開かれた。

三本松 13（9—3　4—2）5　青　森

三本松はシュートが乱れ苦しい立ちあがりだったが、15分をすぎる頃から速攻が決まりだし優位に立った。青森ではGK鈴木の堅守が目についた。

湯　沢（秋田）12（5—3　7—3）6　武庫工

後半いちどは同点（5—5）となったが、地力にまさる湯沢はあせらず、要所で得た7MTを古関が確実に決めるなどして制勝。武庫工の試合ぶりが賞される。

聖光学院工業（福島）11（8—4　3—7　0—0　0—0）11　岩　国

引き分け。抽せんで聖光学院工の勝ち。

ダブルポストからの得点の応しゅうで互いにひかず好試合となった。延長後は共に決め手がなく聖光の7MTを落とす惜しい逸機もあって抽せんにもちこまれた。

八幡工ら勝ち進む
三本松、小倉西に善戦

▽3回戦

中大附属 21（10—5　11—8）13　大分東

大分は相手のエース佐藤を徹底的にマークしたが、中大は竹内らがよく動き巧みに加点してリード、総合力の差をみせて快勝した。

小倉西 17（7—7　10—6）13　三本松

前半はまったく互角、後半、小倉西は10分すぎから連続4ゴールして優位に立ち、このリードを守り切った。敗れた三本松も攻守のバランスがとれた好チームである。

名城大附 19（6—5　13—5）10　初　芝

好テンポの試合。勝負は後半にかけられたが、初芝は反則退場者を出してからリズムを崩し、このスキを名城につかれた。名城の左腕三人を軸とした攻撃陣が印象的。

八幡工 16（6—3　10—6）9　花巻北

花巻北は、後半5分に1点差まで追いつめたが、八幡工は長身を利した攻撃でリードを守りこのピンチを切り抜けた。花巻北は守備の乱れが惜しまれる。

県岐阜商 19（11—2　8—3）5　津　工

体力、スピードに勝る岐阜はほとんどミスプレーがなく前半で大差をつける理想的な試合運び。

津工は岐阜ディフェンスを崩すだけのスピードがなかった。

生　駒 8（3—1　5—2）3　屋　代

屋代は前半まったくの貧打。生駒も決してよいデキではなかっただけに屋代は悔いが残るだろう。

後半は生駒の攻撃陣が冴えをみせ、しだいに点差を拡げた。

聖光学院工 19（10—3　9—6）9　笠　間

聖光は笠間ディフェンスの甘さをついてよく走り勝利を握った。

笠間は長身攻撃をあまり活かせず、これは聖光の出足のよい守備陣を賞したい。

湯　沢 11（6—4　5—3）7　水俣工

湯沢は由利を中心とした速い動きで相手ディフェンスをゆさぶり水俣もよく粘ったが、湯沢は前半の優位を活かして逃げこんだ。

「挨拶」に新しいとりきめ

○……今夏の大会では、試合終了後、両チームが、対戦相手のベンチ前へ行き「挨拶」をする慣行に代って、選手がセンター・ラインをはさみ終了宣告を受け、礼をかわす時に両チームのベンチ(顧問、監督、コーチ、マネジャーなど)も、相手のベンチへ向かい一礼することになった。

○……これまでだと、選手たちは相手ベンチ、本部、時には記録席までとびまわって、お辞儀をし、やっと(?)、自軍のベンチへ戻ったのだが、この新方式でずっとスマートになった。

名城、中大附を制す

名城大附 12（6−5, 6−6）11 中大附属

得	【名城】		【中大】	得
0	牧原	GK	松下	0
0	原	GK	西川	0
2	鈴木康	FP	佐藤	8
0	小田	FP	竹内	1
1	安藤	FP	森	0
5	谷元	FP	浦野	1
4	加納	FP	和智	1
0	大塚	FP	安	0
0	鈴木光	FP	林	0
0	宮地	（審・近藤、清川）	石川	0
0	三田		米津	0
0	近藤		白井	0
12	（2）	7MT	（1）	11

優勝争いの最大のヤマ場と目される一戦、さすがにスケールの大きい好試合だった。

中大のすべり出しはすこぶる好調で、前半なかば3−0とリードしたが、名城はしだいに立ちなおり、鈴木康の鋭い動きを中心に点差をつめ、23分には逆に1点の優位を奪った。このあたりのたたみかけは、高校ばなれしている。

後半はまったくの互角、中大必死の反撃は、前半の劣勢をはね返して、勝負の予断を許さなかったが、名城は11−11から23分20秒谷元が切りこんで12−11。中大は残り46秒でゴール前FTを得、しかもその直後、名城・大塚が3度目の退場（失格）を課せられるというスリリングな場面を迎えたが、名城デイフェンスの当たりにあってシュートにもちこめず涙をのんだ。（杉山 茂）

聖光学院工 16（7−6, 9−5）11 県岐阜商

得	【聖光】		【岐商】	得
0	森藤	GK	河村	0
0	原田	GK	日比野	0
2	真田	FP	安藤	3
4	遠藤	FP	鷲見	2
5	小山	FP	松井	4
1	佐藤	FP	松野	1
0	鈴木	FP	宇佐美	0
1	西坂	FP	岩田	0
3	今野	FP	高野	1
0	菅野	（審・佐野、岡前）	房原	0
0	石井		奥田	0
0	大内		岩崎	0
16	（2）	7MT	（1）	11

岐阜は好スタートを切ったが、聖光は遠藤がロングをよく決めてもり返した。

後半、岐阜の反撃が期待されたが聖光ディフェンスのマークにあって動きを止められ、しかも2度の反則退場などもあって守りが手うすとなり、聖光にペースを握られてしまった。（高山宗学）

八幡工、小倉西おびやかす

小倉西 17（8−6, 9−7）13 八幡工

得	【小倉】		【八幡】	得
0	今本	GK	石田	0
0	岩崎	GK	寺島	0
0	浜口	FP	水原	0
5	岡村	FP	後藤	1
2	奥野	FP	宮屋	0
3	徳永	FP	古川	0
4	中村	FP	小林	3
3	角本	FP	塚本	5
0	松延	FP	井上	0
0	関川	（審・上田、辻）	荒木	3
0	神野		村田	1
0	西尾		尾中	0
17	（0）	7MT	（3）	13

先制点は八幡があげたが、小倉は角本、岡村らですぐに逆転した。

しかし、八幡はよく粘り1−5から一気にタイとするなど一歩も引かずコートサイドをわかせた。

後半になると小倉の地力が発揮されて15分には15−8と開き、勝負が決まった。ともにフェアな試合ぶりで好感がもてた。（望月仲三郎）

湯沢 11（5−4, 6−4）8 生駒

【湯沢】		【生駒】
佐々木	GK	松村
加藤	GK	大蔵
菊子	FP	山口
古関	FP	生駒
麻生	FP	吉村
内藤	FP	北野
由利	FP	服部
高山	FP	真杉
阿部	FP	中畑
近田	（審・川口、中井）	永広
新川		伏見
佐藤		井上
11 （1）	7MT	（1） 8

上り調子の生駒を湯沢はたくみにかわした。実力はまったく互角だったが、湯沢はやはり試合運びに一日の長があり、相手の長身選手を要所でマークするなどソツのないところを見せた。（嶋田新太郎）

湯沢、リードを奪えず

▽準決勝

小倉西 13（7−6, 6−6）12 湯沢

得	【小倉】		【湯沢】	得
0	今本	GK	佐々木	0
0	岩崎	GK	加藤	0
0	浜口	FP	菊子	0
3	岡村	FP	古関	6
2	奥野	FP	麻生	3
1	徳永	FP	内藤	0
3	中村	FP	由利	3
4	角本	FP	高山	0
0	松延	FP	阿部	0
0	関川	（審・石切山、奥村）	近田	0
0	神野		新川	0
0	佐藤		佐藤	0
13	（1）	7MT	（3）	12

両チームとも慎重な立ちあがりで固さがのぞき、ミスプレーからなかなか得点できなかった。

先制点は6分湯沢が由利であげたが、小倉は11分同点のあと2点を追加、優位に立った。ここまでの間、小倉は7MTをふくめ再三の好機を逸していただけに、湯沢はつけこんでおくべきだった。

後半、湯沢は10分9−9としたが、どうしてもリードを奪えず、一方小倉西は、ゴール前の組織攻撃を実らせて加点、苦しみながらも持ち味を発揮して逃切った。（望月）

名城好調、GKも1点

名城大附 16（7−2, 9−4）6 聖光学院工

得	【名城】		【聖光】	得
1	牧原	GK	森藤	0
0	原	GK	原田	0
4	鈴木康	FP	真用	1
0	小田	FP	遠藤	1
3	安藤	FP	小山	1
4	谷元	FP	佐藤	1
1	加納	FP	鈴木	0
1	大塚	FP	西坂	1
2	鈴木光	FP	今野	1
0	宮地	（審・近藤、清川）	菅野	0
0	三田		石井	0
0	近藤		大内	0
16	（1）	7MT	（2）	6

波にのる名城FP陣はこの日も聖光ディフェンスを左腕3人の攻撃でかく乱しながら容しゃなく襲い、GK牧原まで一投を相手のゴールへ突きさす大たんな試合ぶりだった。

聖光は、前半、鋭さがなく、名城のはげしい当りにあってフィールドゴールは佐藤の1本だけ。

後半も、名城に走りまわられ、勝機はほとんどなかった。（嶋田）

小倉西、粘り実らず
多彩な攻撃みせた名城

▽決勝

名城大附 11（6−4, 5−4）8 小倉西

得	【名城】		【小倉】	得
0	牧原	GK	今本	0
0	原	GK	岩崎	0
5	鈴木康	FP	浜口	2
0	安藤	FP	岡村	1
2	谷元	FP	奥野	1
0	加納	FP	徳永	1
2	大塚	FP	中村	2
0	鈴木光	FP	角本	1
2	小田	FP	松延	0
0	宮地	（審・岡前、佐野）	関川	0
0	三田		佐藤	0
0	近藤		神野	0
11	（1）	7MT	（0）	8

○……「無欲の進出」という小倉西・山形監督、「中大附に勝って自信と欲がでました」という名城・小川監督。

チームカラーも、組織攻撃の小倉西、タテの走りと左腕トリオの名城、すべて対照的であった。

小倉は好調。3分速攻から中村5分25秒徳永が独走、7分のFTを浜口で決め3−1。ディフェンスも名城の切りこみを巧みに封じこんでペースを握ったかにみえた。

○……しかし、名城は9分30秒速攻による鈴木康のゲットを口火に20分までに4連続ゴール、22分1点を返されたものの24分20秒セットから安藤で6−4と離した。

後半開始とともに小倉西はスパートし3分45秒6−6のタイ、予想どおりの白熱戦となったのだが名城は5分25秒鮮やかなスカイプレーを鈴木康が決めてから再び調子づき16分には9−6と優位をキ

ープした。

○……小倉西もひるまず19分岡村19分50秒角本の連続ゴールで8－9と迫り、いちだんとエキサイトしたのだが、残り2分となって名城は、驚異的な突進とスピードによる速攻2本をみせて、いずれも加納が得点、小倉西を振り切った。

終盤にみせた名城のこの速攻こそ、初優勝の〝力〟であり、印象的なものであった。小倉西は前半2本の7MTを相手GKの好判断にあって落したのが悔やまれよう。（杉山）

女　子

水海道二、和洋を降す
小松市女、完封勝ち

▽1回戦

真備（岡山） 8（4－2・4－1）3 新潟女（新潟）

新潟がポストプレーにこだわりすぎたのに対し、真備はミドル、セットを使い分けて制勝。

神埼農（佐賀） 10（4－3・6－1）4 池田（徳島）

神埼農は後半速攻でポイント、池田は前半五角に進めながら、後半はミスが多く点差を開かれた。

水海道二（茨城） 11（5－3・6－2）5 秋田和洋（秋田）

強豪同士の顔合せ。水海道は後半速攻をよく決めてロングを主体とした和洋の攻撃を突き放した。

小松市女（石川） 12（5－0・7－0）0 明徳商（京都）

ともに動きが固かったが、特に明徳はまったくの不振、小松は後半木来の攻撃で完封勝ち。

添上（奈良） 9（5－3・4－2）5 室蘭商（北海道）

添上はのびのびと戦い、若手の多い室蘭を押しこんだ。添上は速攻がよく決まった。

新居浜商（三重） 14（5－2・9－2）4 国分実業（鹿児島）

国分はかんじんのところでパスミス、キャッチミスを演じ、新居浜商は楽々と引きはなした。

大谷（京都） 9（5－2・4－1）3 清水市商（静岡）

大谷は速い攻撃をしかけて先制ロング、速攻もよく活きた。清水は7MTの失敗などで完敗。

四日市（三重） 5（2－2・2－2・……・0－0・1－0）4 山梨（山梨）

ホームコートの四日市は延長後半、嶋田が貴重なシュートを決めて辛勝。ともに凡失が多かった。

羽水（福井） 11（5－4・6－5）9 浜田（島根）

羽水は大久保、梅野が5点づつあげる活躍で粘る浜田を振り切った。点差の割に盛上らなかった。

高岡女（富山） 9（4－0・5－0）0 高知西（高知）

走力に優る高岡の順当勝ち。高知は徹底した遅攻だったが、コンビが合わず零敗してしまった。

甲子園学院（兵庫） 13（7－2・6－0）2 倉吉産業（鳥取）

初出場の倉吉は甲子園の出足のよい守りに攻撃の芽をつまれ、前半の5点差がやっとだった。

涌谷（宮城） 13（6－1・7－1）2 古賀（福岡）

湧谷は長身攻撃で相手のディフェンスを崩し一方的な経過。古賀はミスプレーが多く自滅といえた。

小諸商（長野） 12（5－2・7－2）4 粉河（和歌山）

小諸はタテの攻撃で粉河を押しまくった。粉河は守りに甘さがのぞき、再三速攻でゴールされた。

暁（三重） 7（3－4・4－2）6 明倫（神奈川）

明倫は前半リードしながら、後半タイのあと7MTで追いぬかれ惜しい星を落とした。

三本松（香川） 13（4－1・9－3）4 小林商（宮崎）

身長とスピードに優る三本松が確実に活かし、ラフな小林商を退けた。

小禄（沖縄） 11（8－0・3－2）2 竹田女（山形）

小禄の前半の攻撃は鮮かだった竹田は無用の反則から相手にチャンスを与えFTから得点された。

熊本市立（熊本） 6（4－3・2－1）4 昭和学院（千葉）

緊迫した好試合。熊本はリードしたあとの守りが固く、この堅実さが大きな勝因となった。

深谷女、真備に逆転負け
国学院栃木、大谷に辛勝

▽2回戦

真備 6（2－3・4－2）5 深谷女（埼玉）

深谷は得意の速攻で優位に立っていたが、後半になると鋭さを欠き、そこを真備に粘り強くつかれて逆転負け、あっさり2連勝の夢は消えてしまった。

小松市女 12（6－1・6－3）4 山陽女（広島）

小松は山陽GK平岡の好守に悩まされながらも、スピード豊かな攻撃で主導権を握り、後半に入ってもその手をゆるめなかった。山陽は前半の傷があまりに深かった

大分東（大分） 12（5－4・7－5）9 神埼農

神埼はリードされながらも食い下り、力のこもった好試合を演じた。大分東は走力とロングで得点機を逃さずつかみ、守りも最後まで動きがおとろえなかった。

徳山（山口） 12（6－1・6－6）7 添上

徳山はセットと速攻で着実にポイント、一方、添上は徳山守備網を破るだけのスピードがなく、後半、やっと調子をととのえたが時すでに遅かった。

新居浜市商 14（8－3・6－3）6 守山女（滋賀）

両チームともよく走った。しかし守山のシュートは相手GK秦に阻まれ、逆に速攻を受けて、しだいに点差がはなれていった。新居浜は前半の確実さが余裕を生んだ

四日市 8（5－1・3－4）5 石川（福島）

力は互角とみえたが四日市は前半、数少ないチャンスを活かしてリード。石川は再三のノーマークや7MTを単調に射ちこんで阻止されたのが痛かった。

涌谷 11（6－1・5－1）2 桜水商（東京）

涌谷の一方的な展開だった。立ちあがりから多彩な攻撃で桜水のゴールを割り、危気なかった。桜水は攻防両面で迫力に欠け勝機はまったくなかった。

甲子園学院 11（6－2・5－1）3 加納（岐阜）

甲子園は前半2本の7MTを巧く活かしてリード、後半にもその優位を持ちこんで完勝した。加納は、相手の固い守りを攻めあぐみよいところがなかった。

暁 8（3－0・5－3）3 羽水

暁はパスワークで羽水を上廻り前半で優位に立った。相手を0点に封こじんだのだから、もちろん守りもよくできていたわけだ。羽水は攻撃の変化が乏しかった。

国学院栃木（栃木） 7（4－3・2－3・……・1－0・0－0）6 大谷

栃木が押し気味だったが主導権を握れず、大谷に食いつかれた。延長前半、栃木は7MT（茂呂）でようやく決勝点をあげ、辛くも逃げこんだ。

水海道二 10（3—3、2—2、……、2—0、3—1）6 島原農（長崎）

よい試合だった。前、後半はまったくの互角。延長に入って島原が絶好機を逸したあと、水海道は速攻とダブルポストからの得点で優位に立ち快勝した。

高岡女 5（2—0、3—1）1 花巻南（岩手）

互いにGKが美技を見せあい、後半に勝負がかけられたが、高岡は、数少ないチャンスを活かしてリード、花巻南は結局、立川の1点だけに留った。

小諸商 9（3—2、6—2）4 青森西（青森）

雨中戦。小諸は後半、相手が反則退場で一人欠けるチャンスをつかみ、ここで一気に加点した。青森は最後まで食い下り、気力のあるプレーをみせ好感がもてた。

小禄 9（5—1、4—5）6 浦和市立（埼玉）

浦和は後半笠原、榎本らでよく追いこんだが、小禄は前半からのびのびとしたプレーで得点をあげ、特に城間、具志が思い切りのよいプレーを見せたのが印象に残った。

三本松 7（2—0、5—3）3 桐生女（群馬）

雨にたたられ動きを鈍くさせたが、三本松は前半の優位をキープ速攻、遅攻を巧く使い分けて粘る桐生女をおさえこんだ。守りの力も勝負につながったようだ。

熊本市立 9（5—1、2—6、……、1—1、1—0）8 市邨学園（愛知）

市邨のすばらしい反撃で延長。延長後はまったく互角だったが、後半、熊本はエース緒方が貴重なシュートを決めて、大激戦にケリをつけた。

3試合が延長の激戦
四日市、後半力つきる

▽3回戦

大分東 21（9—7、12—3）10 真備

後半、大分東は速攻を連続させて大量点をあげ予想外の大差となった。真備は柏崎を中心に前半は五分だったが、後半わずかな乱れから攻めこまれたのは惜しい。

甲子園学院 5（1—3、4—1）4 四日市

四日市ペースの前半と変わり、後半は甲子園がじわじわと反撃、逆転した。両校いささか消極的な試合ぶりだったが、GKの美技もまじえなかなかの内容といえた。

小松市女 10（7—1、3—0）1 小禄

好試合が予想されたが小松の動きは小禄より一枚上、特に前半にみせたショートパス攻撃は鮮やかだった。小禄は辛くも零敗を免れた。

国学院栃木 10（5—4、2—3、……、1—1、2—0）8 暁

二転三転して延長へ。前半はなおも互角で、容易に勝負はつきそうになかったが、栃木は後半、熊倉のゲットでようやく勝利を握ることができた。

小諸商 15（9—1、6—6）7 三本松

実力伯仲とみられながら、勝負はあっさり前半で決まってしまった。三本松はシュートコースが甘く、小諸ディフェンスに読まれて前半1点という拙攻がひびいた。

涌谷 9（6—3、2—5、……、0—0、1—1）9 新居浜市商

引き分け。抽せんで涌谷の勝ち。速攻を武器とした亘りあいで手に汗握る好ゲームとなった。いくつものヤマ場を互に切り抜けての引き分け。抽せんで結着というのはあまりにも「無情」の気がした。

徳山 7（2—1、3—4、……、0—1、2—1）7 水海道二

引き分け。抽せんで徳山の勝ち。セットの徳山、速攻の水海道とともに持ち味を存分に発揮した好試合。延長後も白熱したままタイアップとなり男女を通じこの日3度目の抽せんとなった。

熊本市立 13（5—1、8—2）3 高岡女

熊本は高岡の動きの鈍さをついて得点機をつかみ、あっさり優位に立った。高岡は後半、疲れものぞき、気勢をあげられぬまま退いた。

涌谷、熊本市立振り切る
甲子園、大分東に惜敗

▽準々決勝

涌谷 11（5—3、6—4）7 熊本市立

得	【涌谷】		【熊本】	得
0	安往	GK	宮本	0
0	斎藤	GK	中尾	0
2	穂積	FP	古永	0
1	高橋美	FP	緒方	6
4	黒沢	FP	荒家	0
2	木村	FP	藤本	0
2	畑中	FP	増永	0
0	千葉	FP	鳥飼	0
0	大友	FP	松本	0
0	高橋初	FP	源	1
0	土生木	FP	西村	0
0	大泉	FP	奥梠	0

（審・浅野 奥村）

11（2）7MT（3）7

期待にたがわぬ好試合を展開した。前半から涌谷は積極的に改め押し気味に試合を進めた。

2点のリードを許した熊本は、後半、7MT（緒方）を活かして追いあげ、いちどはタイとしたのだが涌谷は、再びポスト、速攻などを巧みに決めてリードを奪い、そのままのペースで逃げ切った。

涌谷が全員よく動いて得点機をつかもうとしたのに対し、熊本は緒方のシュート力に、たよりすぎたのではなかろうか。

涌谷は、積極さが勝因である。

（高山）

小松市女 9（4—5、5—0）5 国学院栃木

得	【小松】		【国学】	得
0	屋敷	GK	大森	0
0	新開	GK	金井	0
0	埼田	FP	茂呂	0
1	鳥野	FP	松本	0
4	山際	FP	熊倉	3
0	西出	FP	高山	0
3	貝野	FP	大橋	0
1	中川	FP	殿塚	1
0	坂	FP	柳田	1
0	北村	FP	茂木	0
0	城下	FP	磐田	0
0	南出	FP	小保方	0

（審・鈴木 大橋）

9（2）7MT（0）5

優勢とみられた小松に対し、国学院は元気いっぱい。走力を活かして、チャンスをつかみ熊倉、殿塚、柳田らの好シュートで1点をリードした。

ところが、後半になると小松が攻守ともにいちだんと鋭い動きをみせ、特に出足のよいデイフェンスは国学院の焦りを誘った。最後に地力の差があらわれたが見応えのある試合だった。（日野 博）

大分東 12（7—5、5—5）10 甲子園学院

【大分】		【甲子】
上野	GK	広沢、大川
村上、紀野、宮田、藤野、多々良、古野、奈須、古田	FP	野村、神野、掛水、司城、石田、魚谷、岡村、大江、平元、金保
12		10

大分東はエース紀野がマークされながらもシャープな動きをみせてチャンスをつかみ前半をリードした。

甲子園も、つねに射程内のスコアで追い、後半は勝機もあったのだが、結局は、前半の2点差が重くのしかかり、差を詰めても一気にペースを奪いとることはできなかった。（嶋田）

徳山　14（8－3／6－5）8　小諸商

得	【徳山】		【小諸】	得
0	森下	GK	土屋喜	0
0	浜田	GK	今井	0
1	高木	FP	小山美	1
1	原谷	FP	小山真	2
2	左川	FP	掛川	1
0	神田	FP	新井	3
7	伊藤典	FP	小田切	0
3	松井	FP	阿久津	0
0	花田	FP	土屋満	1
0	古木	FP	塩川	0
0	伊藤佳	FP	山浦	0
0	藤井	FP	木内	0
14（0）		7MT		（1）8

（審・日野、石切山）

小諸は、徳山のスピードプレーに守備網を破られ、攻めてはエリア前での動きに鋭さを欠いた。

巧者の徳山はこのスキをついて伊藤典を中心に連続4ゴールなど好調に加点、主導権を握った。

後半、小諸も立ちなおり追いこんだが、大勢をくつがえすまでにはいたらなかった。スコアほどの実力差はなく、立ちあがりの巧拙が、以後の展開を色分けたといってよいだろう。（杉山）

痛かった7MTの失敗・涌谷

▽準決勝

小松市女　8（4－1／4－3）4　涌谷

前半、小松がポストプレーを確実に決め得点したのに対し、涌谷は4本の7MTのうち3本を落としたのがたたり、小松が優位にたった。

得	【小松】		【涌谷】	得
0	屋敷	GK	安住	0
0	新開	GK	斎藤	0
1	崎田	FP	穂積	0
0	島野	FP	高橋美	1
0	山際	FP	黒沢	0
0	西出	FP	木村	2
2	貝野	FP	畑中	1
5	中川	FP	千葉	0
0	坂	FP	大友	0
0	北村	FP	高橋初	0
0	城下	FP	土生木	0
0	角出	FP	大泉	0
8（0）		7MT		（1）4

（審・上田、辻）

後半も小松のペースで進み、涌谷はシュートの不調で点差がつまらず、ロングシュートによる攻撃を繰り返すばかりだった。

小松は、全員のスピードが最後まで落ちず、チームプレーがよく活きていた。（日野）

遅し、大分東の反撃

徳山　8（4－2／4－4）6　大分東

得	【徳山】		【大分】	得
0	森下	GK	上野	0
0	浜田	GK		
1	高木	FP	村上	0
1	原谷	FP	紀野	3
1	左川	FP	宮田	2
0	神田	FP	藤野	0
4	伊藤典	FP	多々良	0
1	松井	FP	古野	1
0	花田	FP	奈須	0
0	伊藤佳	FP	吉田	0
0	藤井	FP		
0	古木	FP		
8（0）		7MT		（1）6

（審・山口、望月）

シュートは大分東のほうが多かったのだが、決定力を欠き、徳山GK森下の好守にあいポイントとならなかった。

一方、徳山はフリースロー、ロング、ポストなどから多彩に攻めこんで確実にゲット、その差が前半の優劣につながった。

後半、大分東もよく追いこんだのだが、徳山のペースはおとろえず、振り切られた。（岡前義春）

山際（小松）決勝シュート

徳山、先行も実らず

▽決勝

小松市女　7（4－3／3－3）6　徳山

得	【小松】		【徳山】	得
0	屋敷	GK	森下	0
0	新開	GK	浜田	0
0	崎田	FP	高木	1
0	島野	FP	原谷	0
4	山際	FP	左川	0
0	西出	FP	神田	1
2	貝野	FP	伊藤典	4
1	中川	FP	松井	0
0	坂	FP	花田	0
0	北村	FP	伊藤佳	0
0	城下	FP	藤井	0
0	南出	FP	古木	0
7（1）		7MT		（0）6

（審・清川、近藤）

○……決勝にふさわしい熱戦だった。

前評判は攻撃の小松、防禦の徳山、といわれていたが、決勝戦ともなれば、その攻防はまったく互角、どちらも鍛えぬかれたプレーを応しゅうさせた。

徳山は好調のスタートを切り、守っては左川のシャープな動きで、小松の攻めを封じた。

しかも、小松には、緊張しすぎたのか7MTを再三落とすというミスがあっただけに、徳山が優位に立ってもよかったのだが、前半のスコアは4－3と小松リード。要所でゴールを決めた山際、中川の巧技によるものだった。

○……後半、徳山は伊藤典のシュート力を活かし追いつき「延長」の声がささやかれたのだが、小松はタイムアップ直前、山際が鮮やかなミドルシュートをとばして、ゴール下に決め決勝点を奪った。

徳山は先取点以外、ついにリードを奪えず、追いつくのに精いっぱいだったところをみると小松の地力勝ちといえるが、両GKの美技などあって見応えのある内容だった。（望月）

優勝監督の話

◇名城大附・小川安人監督　激戦の愛知予選、東海大会などを勝ち抜いてきたので、ある程度はいけると思っていた。準々決勝で中大附属に勝ち、選手たちも自信ができたようだ。

左3人の編成は、私が現役時代（桜台高出）左腕だったこともあり夢の実現といえた。

◇小松市女・谷口俊春監督　感がい無量です。一日も休まずつづけた練習に、部員全員がよくついてきてくれました。

個人的に秀れたプレイヤーはいないので、チームプレーに徹していこうと思い、その方針が実を結んだといえるでしょう。準々決勝あたりから主力が負傷したりして苦しかっただけに喜びはいっそうです。

日韓高校交流

小松市女、面目の一矢

第8回日韓高校交流試合（第6回日韓高校スポーツ交歓競技会）は、韓国から男子・高麗商、女子・慶熙女を招いて8月18、20日の両日東京駒沢体育館で行われた。

日本側は男女とも、東京都代表校と、第24回全日本高校選手権（別掲）の優勝校。このところブの悪い男子は今回も高麗商の粘りのある攻守に名を成さしめて連敗。

初交流の女子は、韓国ジュニアナショナルの主力を要に配した慶熙女が、第1戦に快勝したが、日本側も小松市女がみごとなチームプレーで一矢を報い日本勢全敗を防ぎとめた。なお、男子の通算成績は日本側の24戦8勝2分14敗

男子第1戦・高麗商×中大附属（東京）の試合は、8月18日午後2時3分に開始。審判員＝岡前義春、大塚文雄。（観衆八百）

高麗商 15（9—7 / 6—5）12 中大附属

○……去年ソウルで顔を合せた時は12—11で高麗。

雪じょくを期す中大は立ちあがり、佐藤（全日本ジュニア）が4ゴールする活躍で10分すぎまで先行したが、高麗はサイドを使って

得	【高麗】		【中大】	得
0	張福煥	GK	松下	0
0	馬東国	GK	西川	0
1	金英万	FP	佐藤	9
0	李昌律	FP	竹内	1
2	朴光雲	FP	森	0
6	張星淳	FP	浦野	1
5	朴寛憲	FP	和智	0
1	李裁秀	FP	安	1
0	徐浩鎮	FP	林	0
0	韓太洙	FP	石川	0
0	朴然得	FP	白井	0
15 (3)		7MT		(2) 12

のゆさぶりと、張(星)、李(寛)のシュート力を活かした正面攻撃で15分を境に立ち場を逆転、僅少差ながらリードを保った。

中大附も反撃の射程距離に相手をとどめておきながら、高麗ディフェンスの詰めのよさにあって、どうしても追いこすことができず後半17分12—13からは無得点、逆に21分朴（光）、24分40秒7MT（張星淳）でダメを押された。

高麗の攻防両面におけるこまかく素早い動きはみごとで、中大附は松下の堅守がなければ、かなり差をつけられたかもしれない。（杉山）

名城附、再三の同点空し

男子第2戦・高麗商×名城大附属（愛知）の試合は、8月20日午後2時に開始。審判員＝佐野和夫、安藤純光（観衆七百）

高麗商 17（9—7 / 8—6）13 名城大附

得	【高麗】		【名城】	得
0	張福煥	GK	牧原	0
0	馬東国	GK	原	0
3	張星淳	FP	鈴木康	3
0	李裁秀	FP	小田	0
2	金英禹	FP	安藤	1
2	李昌律	FP	谷元	5
8	朴光雲	FP	加納	1
0	徐浩鎮	FP	大塚	1
0	韓太洙	FP	鈴木光	1
0	朴然得	FP	宮地	1
2	李寛憲	FP	永井	0
17 (0)		7MT		(2) 13

○……実力は互角だったが、名城附はつねに後手にまわり、6たび同点としながら、一度も先行できず敗れた。高麗の「ここ一番」の粘りが印象づけられた。

どちらかといえば、セットからの変化攻撃に特色をもつ韓国勢だけに、後半4分7—11から名城附が一気に4ゴールして11—11とした時は、そのままの勢いで主導権を奪いかえすのではないかと思えた。

○……しかし、高麗は10分、空間パスを李(昌)—李(寛)—朴(光)とつなぐ鮮やかなスカイプレーを成功させ乗りかかった名城附のリズムをたち切った。天性のジャンプ力とボールへの執着心を示したプレーといえる。〃粘り〃の主役は朴(光)。小がらながら、攻守にすばらしい動きをみせ、少々当たられても態勢の崩れぬ腰の強さには目を見はらされた。

○……名城附は、相手の早い帰陣に、攻撃の出足を止められ、後半15分、相手が失敗したあとの7MTを決め、ふつうなら、これを境にツキも変るのだが、追加点がなく、勝運からも見放されていた。（荒川）

初の交流、韓国が勝つ

女子第1戦・慶熙女×桜水商（東京）の試合は、8月18日午後1時5分に開始。審判員＝安藤純光、佐野和夫。（観衆五百）

慶熙女 12（7—3 / 5—1）4 桜水商

得	【慶熙】		【桜水】	得
0	金美愛	GK	桜井	0
0	崔仙尹	GK	木村	0
0	朴玉景	FP	佐藤	1
0	李福姫	FP	大津	0
2	金順徳	FP	上代	2
3	李京淑	FP	三浦	0
1	金英子	FP	三沢	0
4	盧敬姫	FP	蘇畑	1
0	金淑子	FP	本城	0
2	金京姫	FP	新井	0
0	韓玉洙	FP	大木	0
12 (1)		7MT		(1) 4

○……数年前から女子の交流について はなみなみならぬ関心を示した韓国、そのカゲに「自信」があったことは云うまでもない。

慶熙は、韓国ジュニアナショナルの一員で、しかもその主力級という李(敬)、盧、GK金のトリオを軸に多彩な攻守を見せ、鋭さのない桜水をおさえこんだ。桜水は立ちあがり0—3のあと上代の連続得点で追いすがり、あるいはと思わせたが、そのあとは完全に力負けだった。（嶋田）

慶熙、シュートミスひびく

女子第2戦・慶熙女×小松市女（石川）の試合は、8月20日午後1時に開始。審判員＝大塚文雄、岡前義春（観衆六百）

小松市女 10（5—3 / 5—3）6 慶熙

得	【慶熙】		【小松】	得
0	金美愛	GK	屋数	0
0	崔仙尹	GK	新開	0
0	朴玉景	FP	崎田	1
0	李福姫	FP	島野	0
2	金順徳	FP	山際	4
0	李京淑	FP	西出	2
0	金英子	FP	貝野	2
1	盧敬姫	FP	中川	1
0	金淑子	FP	坂	0
1	金京姫	FP	北村	0
2	韓玉洙	FP	城下	0
6 (0)		7MT		(2) 10

○……小松市女の先制攻撃はみごとだった。2分30秒山際、3分貝野がいずれもセットから切りこんでゲット、さらに6分10秒の7MT（山際）で3—0。「インター・ハイの時より、リラックスしている」という谷口コーチの言葉どおり、のびのびとしたプレーをみせた。

○……シュートコースがもうひとつ甘い慶熙女は、10分をすぎてから調子が整い、15分には3—4と詰めた。しかし、このあと2回のチャンスをパスミスで逸したのが痛く、逆に19分30秒中川のサイドシュートで点差を開かれた。

○……後半、小松市女は精力的な慶熙女の動きに苦しみながら、よくもちこたえ、特に11分、李(京)—盧という看板コンビで攻めこま

れたノーマークのピンチをGK屋敷の好守で阻止したのが大きかった。その直後、自陣でパスを受けた貝野が金（順）のボディチェックを巧みにかわしながら、一気に独走しゲット、8－5。この二つの美技で小松市女の勝利は決まったと思う。

○……慶熙女は、桜水商戦でみせたパス攻撃を相手に読まれて、得点機をつかめず、立ちあがり、いきなり3点をとられたのもひびいていたようだが、左腕・李（京）の攻防両面における鋭い動きをはじめ「個々の技術は日本を上まわる」（近藤金博東京重機監督）など、今後は、日本チームの前に大きく立ちはだかりそうだ。（杉山）

上位校が3回のリーグ戦
韓国代表が決まるまで

○……韓国高校界のこの大会にかける熱意は相当なもの。

代表校を決めるために、5月から約2ケ月、各道とソウルの上位チームによってリーグ戦（韓国高校選手権）が行われるが、それも1回だけではなく3回総当り。男子の場合、高麗商・韓錫東監督の話によると「今年は10校が参加したので、一校の試合数は27に及んだ」。しかも、1回のリーグが終るごとに順位をつけ、1位5点から4位2点までポイントが与えられ、第3次リーグだけは1位10、2位8…といったように倍増し。

高麗商は2位、1位、1位で19点と抜群だったが、女子は大接戦、慶熙女と2位の差はわずか1点という近来にない優勝争いで、大いに話題をまいたそうである。

来年度以降改組か

日本体協は、来年度以降、この大会の主催を高体連に委譲する意向で、8月21日、韓国側の了承を求めたが結論は出なかった。高体連も11月の総会まで確答をさけており、なりゆきが注目される。

来日選手団名簿

【男・高麗商】

▽監督	韓	錫東	(49)
▽コーチ	柳	在忠	(25)
▽GK	張	福煥	171cm
	馬	東国	173
▽FP	金	英禹	178
	李	昌律	174
	朴	光雲	167
	張	星淳	185
	朴	寛憲	176
	李	栽秀	169
	徐	浩鎮	184
	韓	太洙	170
	朴	然得	174

【女・慶熙女】

▽監督	朴	貞蕪	(52)
▽コーチ	金	栄佑	(34)
▽GK	金	美愛	162cm
	崔	仙尹	154
▽FP	朴	玉景	161
	李	福姫	162
	金	順徳	165
	李	京淑	158
	金	英子	157
	盧	敬姫	160
	金	淑子	160
	金	京姫	155
	韓	玉洙	160

Osaki

タイムスイッチ

TYシリーズ

24時間では足りないあなたに1日＝72時間

大崎タイムスイッチならそれが可能です。毎日、毎週、毎月、定時刻に自動的にスイッチを〈入・切〉するあらゆる設備機器や年間の日没・日出時刻に応じ、自動的に照明を〈入・切〉する場合に最適です。

大崎電氣工業株式會社

〒141 品川区東五反田2丁目2番7号　TEL.03 (443) 7171番

国体、年令別（少・成年）実施へ

市町村協会設立の促進が必要

日本体育協会は、かねてから検討を重ねてきた「国体開催基準要項」の第5次改訂案をまとめ、7月10日の理事会で議決し、同日の評議員会に報告、各競技団体へも通達された。

改訂案で注目されるのは、国体は「国民の各層を対象とする社会体育の行事であり、国民のスポーツ祭典である」と、その性格をうたった点だろう。

そのため、本大会以外にも多くの参加者を得る目的で、昭和55年の第35回大会から、本大会の予選会を兼ねた〝各都道府県国体〟の開催を義務づけ、第35回大会からは都道府県国体の出場者でなければ、本大会へは参加できないことになった。

また、競技種別は男女とも19才未満の少年、19才以上の成年に大別される。この点は、本誌でも再三伝えられていたが、明後年の第30回大会（三重県下、ハンドボールは四日市市）からの実施が決定した。ただし、成年に限ってはさらに教員、青年あるいは年令別に細分することが許される。

このほか、明後年から表彰規定も一部変わり、天皇杯得点は、従来の競技成績による得点のほか、参加得点と種別優勝得点の2要素が新しく加えられる。

◇

7年近い年月をかけていた国体開催基準要項の改訂案が、ようやく本決りとなった。

日本協会は、この提示を待って「国体ハンドボール」の全面的な検討を行なうことを表明しており早ければ10月の全国理事会(予定)で、新しい方向が打ち出されるだろう。

焦点は、成年男子をさらに「成年(一般)」と「教員」に細分するかだ。この件について日本協会はこれまでいちども公式な話あいをしておらず、年令別問題とともにかなりの議論が予想される。

また、都道府県国体の義務づけは、市町村単位のハンドボール協会結成を促進しなければならぬ。

各都道府県協会への依存ばかりではなく、日本協会がどのような指導をしていくかもカギで、荒川理事長は、とりあえず「都市対抗ハンドボール大会(仮称)」を発足させるよう関係各筋へ働きかけるのではないか、といろみかたが強い。

注目の参加人員については、秋季大会は「一万六千五百」、「一万四千五百」「一万二千五百」と3種の上限が決められ、開催地の諸条件を考りよし選択されることになったため、年度毎に増減というケースが考えられる。実施競技についても、開催地が日本体協及び文部省と協議の上、競技を選択して実施できる、としており、最悪の場合、ハンドボールがはずれる年度もないとはいえぬが、この点については、日本協会は楽観している。（杉）

投書欄　明日への提言

大学定期戦の集結開催を

本誌111号を読んでいて東大―京大定期戦の健在を知った。

東西大学交流の場としての定期戦は、このカード以外にもかなりの数があったハズだが、いずれも、今なお活動をつづけておられるのだろうか。

以前は、一般新聞にも記録が載っていたのだがそれもなくなり、最近は機関誌からも姿を消してしまったのはさびしい。

定期戦を組んでいたのは古豪が多く、時流による部員不足などで休止状態あるいは、とても外部に結果を報じるほどの内容でなくなってしまったのかもしれないが、なんとかその消息を知らせて欲しい。

そのためには、ラグビーやアメリカンのように、東西定期戦を集結して開くのも一策ではないか。

ハンドボールの大学定期戦も過去には、西宮の早関ナイターなどで人気を集めた実績がある。

伝統のカードの復興によって学生界そのものの火が再び燃えることを私はひそかに期待している。

【大阪・高原　宏】

モントリオール五輪の日程草案

JOC（日本オリンピック委）は、このほどモントリオール・オリンピックの日程草案を各競技団体に連絡したが、それによるとハンドボール競技は、本誌110号既報のとおり、会期は一九七六(昭51)年七月二十三日から三十一日までミュンヘン同よう大会後半の8日間である。女子については不明。

【モントリオール・オリンピックハンドボール競技日程】7月23、24、25、26、27、28、29、31日(注・開会式7月17日、閉会式8月1日)

今後の世界選手権派遣
役員2、選手12が原則

日本協会は、8月25日体協で月例常務理事会を開き、今後の男女世界選手権派遣人数について協議を行い、原則として役員2(監督、コーチ各1)、選手12(GK2、FP10)とすることを申し合せた。

これは、日本体協の財政難もあって、年々、世界選手権派遣補助額が少くなり、自己調達分の比重が大きくなることを防ぐためにとられたものである。

現実に、今年度の男女世界選手権のうち、日本体協から日本ハンドボール協会へ交付される派遣費用は、女子大会への10人分(役員1、選手9)、それも往復航空賃の三分の二にすぎない。

男子に関しては全額、日本協会の負担となるわけで、できる限り選手団の編成を縮少し、田村―荒川体制が布かれてから一貫している「いかなる場合も個人負担は一人10～15万円が限度」を守ることにした。なお団長(全額個人負担)はこの人数の別枠である。今冬の世界女子代表はこの線にそって近く荒川理事長と井監督が話合う。

女子で福泉南（大阪堺市）2連勝

全国中学生大会

男子は笹島（名古屋）に栄冠

第2回全国中学生ハンドボール大会は、内外注目のうちに、8月16日から18日までの3日間、名古屋市郊外の愛知県青少年公園緑地球技場に、全国各ブロックの予選を勝ち抜いた男女各9チームと、地元・愛知代表を加えた10チームが参加、行われた。（北海道女子は不参加）

昨年の第1回大会で、すでに多くの反響を呼び、今大会は、いっそうの内容充実に期待が集っていたが、炎天下に活発な試合がつづき、2年目にして〝中学ハンドボール〟は斯界にはっきりと定着した印象を深めた。

◇男子1回戦（2試合）

笹島（愛知）18（10−4、8−5）9 大島（北信越・福井）

麻生第一（関東・茨城）11（4−7、7−1）8 大阪選抜（近畿）

▽同準々決勝

笹島 19（11−2、8−1）3 御館（東北・福島）

釧路鳥取（北海道）19（9−8、10−5）13 香川（四国・香川）

戸町（九州・長崎）13（8−5、5−2）7 麻生第一

長森（東海・岐阜）15（7−4、8−8）12 柱野（中国・山口）

▽同準決勝

笹島 16（7−1、9−5）6 釧路鳥取

長森 11（6−5、5−4）9 戸町

▽同決勝

笹島 7（5−3、2−3）6 長森

得	【笹島】			【長森】	得
0	横田	GK		荒深	0
0	吉川			沢田	0
0	春田	FP		市橋	0
0	小沢			森崎	0
1	伊藤勋			稲垣	0
4	吉田			河村	1
2	黒田			横山	2
0	野田			小木曽	3
1	大釈			佐伯	0
1	大岩			神田	0
0	岩田			高鹿	0
0	伊藤俊			岡田	0
7	（0）	7MT		（2）	6

（審・吉田、沢野）

◇女子1回戦（2試合）

結城（関東・茨城）10（5−4、5−3）7 四日市中部（東海・三重）

小松南部（北信越・石川）8（6−2、2−1）3 大野（九州・長崎）

▽同準々決勝

福泉南（近畿・大阪）14（7−2、7−2）4 小松南部

結城 10（5−6、5−3）9 二瀬（東北・福島）

加納（東海・岐阜）11（9−3、2−2）5 岩国（中国・山口）

上野（愛知）10（7−2、3−2）4 香東（四国・香川）

▽同準決勝

福泉南 6（5−0、1−5）5 福泉南

上野 9（4−3、5−2）5 結城

▽同決勝

福泉南 13（4−1、9−5）6 上野

得	【福泉】			【上野】	得
0	木村	GK		立花	0
0	和田			高橋	0
0	阪口	FP		古山	1
3	小倉			桐山	0
1	高田			小林	0
2	辻本			木野村	3
1	山中			川窪	0
2	久保			中村	2
0	屋敷			古村	0
4	高山			若松	0
0	大仲			久保田	0
0	溝口			荒谷	0
13	（2）	7MT		（1）	6

（審・浅野、安芸）

◇コンソレーションマッチ・男子

香川 13（4−7、9−5）12 柱野

大阪選抜 14（7−5、7−5）14 大島

▽同女子

岩国 7（3−3、4−2）5 香東

四日市中部 9（3−3、6−2）5 大野

課題は参加校数の増加

○……すべてが手さぐりだった昨年に比べ、今年の大会は、はっきりと「中学ハンドボール界」というものの形が示され、試合内容にも、まとまりがみえ、特に男女の準決勝以降は、高校級のプレーもまじえ、成長を印象づけた。

参加各校や、参加地域も、はっきり、この大会での好成績を狙っての登場で、上位チームの体格、体力、プレーはたくましさが感じられた。

○……そうしたムードの中で、女子で大阪・堺市福泉南中が2連勝を飾ったのは特筆されるものがある。というのは、中学関係者たちは、昨年の時点でも「中学大会で連続優勝は至難のワザ」と云っていたのだが、将来はともかく、この段階であっさり連覇する学校が現れるとは驚異ですらあった。

○……男子も、作年につづいて愛知代表に栄冠がもたらされた。ある意味で、これも〝2連勝〟である。

近畿、東海とも、中学への指導普及に、すでに20年をこす実績があり、そうした地味な活動が、桧舞台の開幕で、はっきりと花を咲

かせた、といえる。

別の角度から考えれば、特定の地域ばかりが上位を占めているうちは、中学ハンドボールの拡充は望めない。地域差の解消が、今後の課題として残ることになるだろう。

○……運営面では、やはり、参加数の増大が今年も強く望まれた。

日本協会では、予算がらみの問題とあって慎重な態度をくずしていないが、各県1校はムリとしても、各ブロック復数出場の実現は時間の問題とみられる。

しかし、参加者側の実情は、必しも好条件ばかりではなく、特に遠征費のねん出には頭を悩めているようだ。遠来の釧路鳥取中（北海道）の例をみると、総経費約50万のうち市の助成は17万円弱、不足分はPTAの善意にたよっている、という。

○……参加校が増えれば、大会規模も拡がるわけで、健康管理など、新たなテーマもでてこよう。

大きなものをうみだすための苦労―3年目の来年は、いっそう難しく、いっそうたくましい展開になるのではなかろうか。

出場選手名簿

選手名下の数字は身長(cm)、○内は得点

男子

【釧路市鳥取中（北海道)】篠原171⑨、菅155②、大岡170③、桑山156②、安部168、浄土160、相沢163、大島172④、加藤176③、戸村166②、GK大沢164嶋中167

【郡山市立御館中（東北)】滝田①川崎①、宗像辰①、宗像立①、横田勝、宗像正、横田治、降矢、有馬、橋本、GK富塚、吉田＝身長不明

【麻生町立麻生一中（関東・茨城)】宮崎178⑤、横山171④、小沼162③、高須158②、内山163③、平塚166、額賀166①、山口160、藤崎博156、平山148、GK金田171、藤崎孝159

【大飯町立大島中（北信越・福井)】中本①、川端⑤、上山②、御谷、前本①、小泉、岩藤、新谷正、新谷光、高本、GK一瀬、友本＝身長不明

【岐阜市立長森中（東海)】市橋160②、森崎159②、稲垣168③、河村166⑩、横山160⑤、小木曽170⑩、佐伯155、神田166、高麗157、岡田155、GK荒深169、沢田168

【大阪市選抜（近畿)】松井(住吉)167、加藤（大淀)170、藤本（住吉)167、山田（住吉)175④、山崎（住吉)160、浅谷（大淀)157①、竹田(大淀)166、古川（大淀)166③、永井（住吉)175、水戸（大淀)171、GK石橋（新北野)174、小松（住吉)173

【岩国市立柱野中（中国)】野川162、山本149、世見163、倉谷健160⑥、末岡161、重村162、倉谷恵159、栗屋167⑥、田中156、藤原158、GK西本156田村160

【香南町立香川中(四国・香川)】田井178⑥、川田166、桑田176①、綾野158④、大西160、西種164、奥田163、田中160、渡辺158、楠原166、GK斎藤167、十河166

【長崎市立戸町中（九州)】寺田均165②、平島178⑥、松尾172⑥、古賀168①、岡野166、宮本164④、前田172③、岡本152、三井149、寺田克167、GK大上175、田中163

【名古屋市立笹島中（愛知)】春田160③、小沢154①、伊藤励174③、吉田172㉔、黒田163②、野田164⑨、大釈178⑤、大岩172⑦、岩田172①、伊藤俊171⑦、GK横田165、古川171

女子

【郡山市立二瀬中(東北)】佐藤③、塩田京④、落合、佐久間②、吉成、安藤知、大和田、塩田栄、安藤秋、松岡、GK清水、佐藤＝身長不明

【結城市立結城中（関東)】羽田162、中原160③、畑中152、張替148③、石島151⑥、大橋159⑫、山崎152、飯島151、石川145、堀田153、GK田中157、酒井152

【小松市立南部中（北信越)】北元、笠谷③、宮野③、永野⑥、谷口、上田、山下、中村、田中、GK佐野、岩崎＝身長不明

【岐阜市立加納中（東海第一)】正村154、丸山151、多田160①、金海165①、吉田156⑥、大田164⑦、安田151深尾156、尾藤美154、尾藤多162①、GK平井155、北堀159

【四日市市立中部中（東海第二)】藤157、九鬼152、樋口165②、長谷川161⑥、上杉158、福田146、平岡159、GK永松155①、一海152、森下159、GK川嶋154、上山162

【東海市立上野中（愛知)】古山156⑤、桐山154、小林156②、木野村150⑬、川窪151①、中村153④、吉村160若松154、久保田150、荒谷153、GK立花163、高橋146

【堺市立福泉南中（近畿)】阪口160小倉155⑬、高田155③、辻本156③、山中154④、久保154④、屋敷154、高山148⑤、大仲158①、溝口146、GK木村154、和田153

【岩国市立岩国中（中国)】尾川155③、岸上150、川井157①、河角150、河野145、林151、奥村150①、松原158松浦154、藤本157、GK舛本154、樽本149

【高松市立香東中（四国)】岡本155①、村井160、里160②、靭155、谷本159、視本152、永江154、穴吹157、吉川150①、太田158、GK岩井158、佐々木155

【佐世保市立大野中（九州)＝大野ハンドボール少年団】中村158、吉村151、松本158、森(田)155、山田幹150②、馬場163①、川原158、山田直158、古賀159、田川157、GK森(登)154、平山159

地域中学生大会記録

東北（第2回）

◇8月10日 ◇仙台宮二女高球技場

▽男子1回戦（＝準決勝）
御館（福島）14―10 宮城野（宮城）
黒石野（岩手）14―11 東仙台（宮城）

▽同決勝
御館 15（6―4、6―8、……、2―2、1―0）14 黒石野

▽女子1回戦（＝準決勝）
二瀬（福島）17―3 上杉山（宮城）
下小路（岩手）14―4 矢本一（宮城）

▽同決勝
二瀬 14（6―0、8―1）1 下小路

関東（第2回）

◇7月26、27日 ◇山梨・塩山球技場

▽男子1回戦
蒔田（神奈川）15（6―5、9―1）6 山梨大附属（山梨）
山辺（栃木）23（13―6、10―2）8 佐原二（千葉）
十二月田（埼玉）17（8―3、9―4）7 山梨北（山梨）
麻生一（茨城）20（10―2、10―4）6 塩山（山梨）

▽同準決勝
蒔田 13（10―6、3―2）5 山辺
麻生一 10（7―3、3―2）5 十二月田

▽同決勝
麻生一 20（11―5、9―8）13 蒔田

▽女子1回戦
塩山（山梨）10（6―4、4―3）7 松伏（埼玉）
蒔田（神奈川）18（10―0、8―3）3 甲府南（山梨）
壬生（栃木）8（4―4、4―2）6 甲府西（山梨）
結城（茨城）14（5―4、9―2）6 柏第二（千葉）

▽同準決勝
蒔田 8（4―2、4―3）5 塩山
結城 17（7―2、10―3）5 壬生

▽同決勝
結城 13（7―5、6―4）9 蒔田

東海（第1回）

◇6月17日 ◇静岡・清水商球技場

▽男子1回戦（＝準決勝）
笹島（愛知）31（16―1、15―2）3 吉原三（静岡）
長森（岐阜）13（7―4、6―6）10 平田野（三重）

▽同3位決定戦
平田野 28（14―2、14―3）5 吉原三

▽同決勝
笹島 16（10―3、6―2）5 長森

▽女子1回戦（＝準決勝）
上野（愛知）19（12―5、7―1）6 静岡東（静岡）
加納（岐阜）9（6―6、3―0）6 四日市中部（三重）

▽同3位決定戦
四日市中部 13（7―5、6―2）7 静岡東

▽同決勝
上野 11（6―3、5―4）7 加納

近畿（第2回）

◇7月26日 ◇大阪市立中央体育館

▽男子1回戦（2試合）
大阪 棄権 京都
和歌山 15（10―2、5―7）9 滋賀

▽同準決勝
大阪 13（6―2、7―4）6 奈良
兵庫 16（6―3、10―2）5 和歌山

▽同決勝
大阪 23（13―6、10―2）8 兵庫
優勝の大阪は大阪市選抜チーム

▽女子1回戦（2試合）
大阪 14（8―3、6―2）5 和歌山
奈良 8（3―1、5―4）5 兵庫

▽同準決勝
大阪 棄権 滋賀
奈良 棄権 京都

▽同決勝
大阪 14（7―4、7―4）8 奈良
優勝の大阪は堺市立福泉南中。

四国（第2回）

◇6月24日 ◇高松市民文化センター体育館

▽男子1回戦（1試合）
香川（香川）15（8―3、4―9、……、1―0、1―2、……、1―1、0―0）15 桜町（香川）
引き分け。抽せんで香川中の勝。

▽同決勝
香川 8（3―3、5―4）7 土佐（高知）

▽女子1回戦（＝準決勝）
光洋（香川）12（6―2、6―2）4 香川（香川）
香東（香川）15（9―5、6―1）6 塩江（香川）

▽同決勝
香東 7（1―4、4―1、……、1―0、1―0）6 光洋

中国（第1回）

◇7月29日 ◇山口岩国工高球場

▽男子1回戦（＝準決勝）
茶屋町（岡山）19―5 三朝（鳥取）
柱野（山口）16―8 修道（広島）

▽同決勝
柱野 16―12 茶屋町

▽女子リーグ戦
加茂（広島）8―3 操南（岡山）
岩国（山口）22―1 加茂
岩国 23―4 操南

九州（第2回）

◇7月1日 ◇佐賀・神埼農高体育館

▽男子決勝
戸町（長崎）12（6―5、6―3）8 国分（鹿児島）

▽女子決勝
大野スポーツ少年団（長崎）11（6―3、5―7）10 氷川（熊本）
（その他の試合記録未着）

北海道（第2回）

◇7月22日 ◇北海道教大釧路分校体育館＝男子のみ

▽1回戦（＝準決勝）
釧路北 15（3―4、6―5、……、2―2、4―0）11 釧路東
釧路鳥取 9（6―2、3―2）4 釧路景雲

▽3位決定戦
釧路景雲 12（5―5、6―6、……、1―0）10 釧路東

▽決勝
釧路鳥取 12（6―4、6―6）10 釧路北

第11回 全国スポーツ少年大会 指導報告

山田哲雄
（日本協会普及指導部中央委員）

恒例のスポーツ少年団全国大会が今年も東京渋谷のオリンピック記念青少年総合センターに於いて7月28日～8月2日の日程で開催された。

参加したのは全国少年団のリーダー達47都道府県代表1195名でスポーツ競技種目を選択して分れた分団別に7月29日と30日の2日間午前、午後と4回の実技講習が実施された。

実施種目はハンドボールを含めて12種目。実技指導担当者は各競技団体からの派遣で各協会の力の入れようが伺えた。

競技種目	リーダー（参加生徒） 男子	女子	合計
バレーボール	98	146	244
剣道	166	12	178
バスケット	74	59	133
サッカー	117	0	117
軟式野球	106	6	112
卓球	68	26	94
軟式庭球	36	49	85
柔道	62	0	62
ソフトボール	37	21	58
水泳	24	22	46
バドミントン	10	35	45
ハンドボール	15	6	21
計	813	382	1195

日本ハンドボール協会普及指導部からは渡辺慶寿（同部々長）山田哲雄（同中央委員）の2名が出向し、若い少年団リーダー諸君に2日間4回の講習会を指導した。

本年は各都道府県スポーツ少年団員のリーダーの代表者が12種目のなかから自分で選択をして受講したがその選択結果を表に表わすと、男子的種目、女子的種目などの特殊性もあるが、男女合計の選択生徒数の順位でハンドボールは約1200名の中でわずか21名。60人に1人の割合でしか選択されなかった事実に我々2人は淋しい現実を味わった。

本誌6月号理事長登壇での大田区相原一矢氏や同7月号愛知県中学校アンケート（西川勅也氏）などによって底辺拡大の必要が急務であることを訴えられていたが、1台のバスの半分で座席が足りる我々ハンドボール分団と、5台も6台もに分乗して連らなって練習場に行くバレーボール分団などを横目に見た現実は本当に厳しかったのである。

ちなみに男子生徒の人気ベスト3は、①剣道、②サッカー、③軟式野球、女子生徒の人気ベスト3は、①バレーボール、②バスケット、③軟式テニスとなり小中学生の人気選抜別にも当てはまるようである。

ハンドボール分団の指導は江頭晃氏（長崎県教育委員会指導主事長崎県スポーツ少年団本部育成事務担当）、山口正司氏(熊本県菊池市教育委員会、菊池市スポーツ少年団本部)、笠井百合子氏(愛知県半田市小学校教諭、スポーツ少年団指導者）の3氏の御協力もあって無事終了出来たが、かえすがえすも「21名」という現実には考えさせられてしまった。なお以下には参加少年団リーダーの講習終了直後の感想文から抜すいして紹介しておこう。

〔沖縄県男子中学生・15才〕 以前に多少ハンドボールの経験があるがそんなに面白いとは思わなかったが今回の講習で大変好きになった。こんなに走り廻り又ジャンプするスポーツは他にないと思う。ルールをだいぶ覚えたしチームプレーなども良くわかったので沖縄に帰ったら少年団の人に教えてやろうと思う。友達もできたし本当に良かった。

〔香川県男子中学生・15才〕 僕達の学校にはハンドボール部がない。どのようなものかも全然知らなかった。だけどやっていくうちに大変面白くなった。苦しい中に又ひとつ面白さがあったハンドボールを選んで良かったと思う。これから学校に帰ってみんなに教えてやろう！ みんなの間に広めてやろうと思う。

冗談でなく本当に好きになった。やはりスポーツは良いなあとつくづく思った。どのスポーツにしてもやはり喜びは大きい。何でもやってやろう試してみようという僕の心にかなったハンドボール競技だった。高校になったらハンドボールでもやってみようかと思っているのだがやはり沢山のスポーツをやっていくだろう。ハンドボールをやりたくてもやはり僕には陸上競技がある。同じ喜びを感じるスポーツだ！

〔宮崎県女子中学生・14才〕 ハンドボールなんて一度もやったことがなかった私なので失敗ばかりしていたが見ているととても面白い。特にシートュの決まった時の豪快さをみていると私まで嬉しくなってしまう。ゴールに入れることは大変やさしいようで自分でやってみてとても難しいということがまざまざとわかった。失敗ばかりの私にボールをくれて『シュート！』と叫ぶ友の声、私がションボリとしていると励ましてくれた先生方それが私にとってとても嬉しかった。

〔大阪府男子高校生・17才〕 高一のとき半年ほどハンドボール部に入っていた。そのときよりたった2日間だが今回のほうが上達した。こんなになるとは思わなかった。僕はこの練習に満足している。

〔愛知県男子高校生・17才〕 大変苦しかった。十分やったという気がした。練習も変ったやり方でおもしろく熱中できたと思う。チームワークも良くまとまったし大変楽しく出来ました。

〔長野県男子高校生・15才〕 午前中の基礎練習は息つく間もなくきつかったが午後の試合、特に得点したときなど気持よく大変おもしろかった。始めてハンドボールをやってみたが自分の体のなかで一番自由に使える手でやるのでシュートの豪快さなど素晴らしい。講師が親切でよかった。

◇

受講者の感想文を読むと多くの生徒が選んで良かった、ハンドボールはあまり知らなかったがやってみてとても面白かった、と書いてくれている。「60分の1」と云う点で、今後の普及指導部の活動対策面に多くの問題点を提起してくれると同時に、我々の前途に一灯を見出せてくれるといえるだろう。

全日本教職員選手権

大阪イーグルスが3連勝遂ぐ

スワロー力つきる

第16回全日本教職員選手権は、8月10日から13日までの4日間、来年の国体開催地茨城県・水海道一高グランドに34チーム（棄権2）が参加してトーナメントで行われた。

決勝は、予想どおり3年つづけて大阪イーグルスとスワロー兵庫の対戦となり、前半なかばから優位に立った大阪が後半も着々と加点して大勝、3年連続9度目（大阪教員ク時代をふくむ）の優勝を飾った。

また、新設の女子（オープン）は4チームのリーグ戦を行い大阪教員が勝った。

長崎、大分ら姿消す

▽男子1回戦（2試合）

宮崎教員 26（13―8、13―16）24 新潟教員ク
東京教員 38（18―6、20―0）6 秋田教員

▽同2回戦

大阪イーグルス 42（26―4、16―4）8 宮崎教員
岐阜教員 37（20―5、17―7）12 秋田高専教ク
福岡教員 28（14―8、14―4）12 山梨県教員
栃木教員 34（15―10、19―10）20 長野教員ク
茨城教員 29（17―3、12―4）7 グランドスワロー（兵庫）
岩手県教員ク 32（19―8、13―4）12 長崎教員
鹿児島教員 27（16―8、11―8）16 福島教員
埼玉教員ク 21（13―7、8―9）16 愛教ク（愛知）
千葉教員 34（19―12、15―7）19 岡山教員
和歌山教員ク 46（23―8、23―8）16 三重教員団
オールドイーグルス（大阪） 棄権 南・北海道教員
静岡県教員団 26（14―5、12―15）20 群馬教員
広島県教職員 25（13―12、12―4）16 大分県教職員団
神奈川教員団 21（11―10、10―8）18 大阪教員ク
スワロー兵庫 15（5―7、10―6）13 東京教員

〇……有力チーム同士スワロー×東京はさすがに見応えがあった。

すべりだしは東京が圧倒的。11分には6―2とリードした。しかし、そのあと急に動きがとまり、スワローの追いあげをうけたばかりか、20分すぎからは、一方的に攻めまくられて、逆に4点差をつけられた。後半、奮起して20分には12―13としたのだから、前半の拙攻は悔やまれよう。スワローは終盤追いこまれたが21、25分、畑の連続ゴールが利いた。

〇……神奈川×大阪教員クもきびきびとした気持ちのよい試合だった。後半2分神奈川が12―4とした時は、そのままのペースで終るかにみえたが、大阪は坂口、久下らで粘り7分ついにタイ（12―12）とした。一進一退のあと神奈川は16分水島で15―13としたあと、17分7MTを得て16―13、ここがヤマとなった。大阪のクリーンなプレーとマナーは爽やかだった。

〇……静岡×群馬は乱戦。前半3点差をつけられた静岡は、後半になると動きが滑らかとなり杉山、寺田らでいきなり6ゴールして逆転、群馬は12分17―18と反撃の糸口をつかみかけたが、そのあと13分間無得点に終わり、静岡を立ちなおらせてしまった。

その他の試合は実力差がはっきりすぎ大あじな展開。後半なかばすぎから面白味を欠く試合がつづくのを見ていると、練習内容の差というものを感じさせないわけにはいかぬ。国体のリハーサルを兼ねての大会として定着するならば、ハンドボールの醍醐味を見せるのも、地元の人への〝リハーサル〟として必要なのではなかろうか。

歴代優勝チーム

回	チーム
①（昭33）	茨城教員ク
②	東京教員団
③	神戸ストーク
④	（休会）
⑤	大阪教員ク
⑥～⑩	大阪イーグルス（5連勝）
⑪	埼玉教員ク
⑫	東京教員
⑬	埼玉教員ク
⑭	大阪イーグルス
⑮	大阪イーグルス
⑯	大阪イーグルス

愛知教員、千葉を降す
埼玉、鹿児島に辛勝

▽同3回戦

大阪イーグルス 37（17―2、20―4）6 岐阜教員
栃木教員 19（10―9、9―7）16 福岡教員
茨城教員 30（15―5、15―6）11 岩手教員ク
埼玉教員 17（6―8、11―8）16 鹿児島教員
愛知教員 17（10―10、7―6）16 千葉教員
和歌山教員ク 16（10―4、6―8）12 オールドイーグルス
静岡県教員団 28（15―6、13―9）15 広島県教職員
スワロー兵庫 30（12―10、18―6）16 神奈川教員団

〇……昨秋の国体優勝・鹿児島が埼玉の考巧な試合運びに、得意の

足を封じられ敗退した。一進一退から埼玉は前半終了直前北井が2ゴール、さらに、後半開始1分40秒仲尾で4点差としたのが大きかった。

　鹿児島は力をフルに発揮できぬまま時間を費やし、ようやく後半20分すぎ11−17から中原、田上らで激しく追ったが、1点差に詰めたまでで逃げこまれた。

○……千葉が敗れた。力、技、若さ、どれをとってもトップの力をもつとみられたが、リードしては追われ、タイとしては抜かれる粘りのなさは、はがゆい。

　特に後半20分7−9から9−9としたあとの連続4失点というもろさは敗因の一つとなった。愛知は勝機をのがさぬたたみかけでペースを握り、終盤16−13から猛反撃にあって28分16−16とされながら、残り4秒で松浦が貴重な決勝ゴールをあげたが、再三のピンチをはねのけた攻守のまとまりは大いに賞されよう。

○……栃木×福岡は、栃木がGK高橋の好守で制勝したが、面白い試合であった。前半20分まではまったくの互角、わずかに20分すぎから栃木が原田の巧技でリード、福岡も粘り、後半7分には11−12とするなどもつれた。

　しかし、栃木はこのあと川田、河先で一気に4点をつみあげ16−11とし勝利への基盤を築いた。

○……東、井上、北岡、村田、GK島崎らなつかしい顔を並べたオールド・イーグルスは、和歌山を相手に後半10分には10−6とリードする健斗をみせたが、さすがに、このあたりからスピード差がのぞきはじめ、和歌山は速攻で反撃、16分田中で10−10、17分鈴木で逆転した。オールド・イーグルスは18分同点と食い下ったが、和歌山は攻撃の手をゆるめず25分には13−11とし振り切った。

　このほかの4試合では、広島が序盤、静岡と五分の試合をみせた程度で、順当な結果に終った。

茨城、埼玉に逆転勝ち

▽同準々決勝

大阪イーグルス 34（15−3／19−7）10 栃木教員

○……立ちあがりは互角だったがイーグルスは10分すぎから、相手のパスミスを速攻に結びつけてポイント連続12ゴールをあげて大差。後半栃木も、態勢を立てなおして反撃の気勢を示したが、イーグルスのGK本田を中心とする好守備に阻まれて空しかった。（鈴木　均）

茨城教員 9（3−4／6−4）8 埼玉教員

○……埼玉は、ゆっくりしたペースで、茨城をかわしながら前半を終えたが、後半になると、茨城の速攻を防ぎ止めることができず、15分には5−7とリードを許した。

　このあと、埼玉はいちどタイに追いついたのだが、茨城は20分池田、23分立原と貴重なゴールをあげ、埼玉の反撃を27分仲尾の1点におさえて逃げ切った。茨城は勝ったものの試合のペースは埼玉に握られどおしで苦しかった。（斎藤和夫）

愛知教員 17（7−4／10−10）14 和歌山教員

○……前半、和歌山は愛知の早い守りに、攻撃の糸を断ち切られ、両サイドから個人技で得点するだけだった。これに対し、愛知はコンビのとれたミドルとポストをよく決め、対照的な試合ぶりをみせた。

　和歌山は、後半、吉田のロングやスカイプレーで、11分には9−8と逆転し、20分まで先行したのだが、愛知は残り7分から、再び調子をあげて、あっさり主導権を奪い返した。和歌山は、前半の拙攻が悔やまれよう。（由利　弘）

スワロー 24（9−6／15−6）12 静岡県教員団

○……両チームともスローテンポの展開で前半20分までは、さぐりあいの状態だったが、そのあと、にわかに動きが活発となり、特にスワローの個人技がさえた。

　後半は、静岡がスワローの早い動きについていけず、10分までにたてつづけに8点を奪われ大勢が決した。（永山　茂）

スワロー、愛知を振り切る
イーグルスは茨城に大勝

▽同準決勝

大阪イーグルス 25（9−4／16−4）8 茨城教員

	【大阪】	得	【茨城】	得
GK	本田	0	大村	0
GK			谷萩	0
FP	高橋	6	池田	2
FP	池本	5	立原	1
FP	安達	4	大川	0
FP	市田	2	細谷	3
FP	早川	3	塚田	2
FP	福井	3	高野	0
FP	樫塚	2	松金	0
FP			田中	0
FP			海老沢	0
FP			唯根	0
	25（2）		7MT（1）	8

（審・田中・狩野）

○……せりあいの様相は、前半10分まで。巧者のイーグルスは、そのあと樫塚の好技を口火に3ゴールして主導権を握り、じょじょに点差を開き、GK本田の堅守もあって危気なかった。

　茨城は、後半のはじめ、再び活気のある攻めを見せたが、9分6−11が精いっぱい。そのあとGK大村をベンチへさげてしまったため、せっかくの準決勝進出も、大敗をこうむることになった。（若山　博）

スワロー兵庫 22（7−9／15−5）14 愛知教員

	【兵庫】	得	【愛知】	得
GK	上野	0	竹内	0
GK	松野	0		
FP	北山	2	角	0
FP	大原	0	川島	1
FP	浜野	0	富田	1
FP	畑	4	細井	1
FP	木野	0	松浦	2
FP	藤崎	0	長縄	3
FP	黒田	3	斎藤	2
FP	松岡	7	本多	0
FP	中村	3	深津	2
FP	藤田	3	松本	2
	22（1）		7MT（1）	14

（審・山内・斎藤）

○……愛知は松本の活躍などで前半20分までは押し気味だった。スワローは、22、24分松岡のゲットで7－7としたのだが、元気な愛知は26分斎藤、28分長縄で再びリード、白熱の好試合となった。

後半、スワローは3分松岡で1点差と詰めたが、愛知も4分長縄で2点差をキープ。勝負はもつれそうな感じだったが、スワローは6分藤田で9－10とするや、一気のスパートをみせ、そのあと2分間に3点をたたみかけて、あっというまに逆転した。

この〝爆発〟は12－11とせまられた13分すぎから再びみられ、17分までに4点連取、16－11とし、勝負の行方をはっきりさせた。ベテラン北山の好リードが光った。

愛知は、自分のペースに相手を誘いこみながら、後半はじめに逆襲をうけてから動きが鈍くなり、それまでの優位を保ちつづけられなかったのは惜しい（田村幸雄）

茨城、久々の上位進出

▽同3位決定戦
茨城教員 26（12－3 14－7）10 愛知教員

○……茨城は池田を中心にフリースローからチャンスをつかんでポイント。後半は、GK大村の好パスで速攻を次々と決めた。

愛知は、序盤のチャンスを大村の好守にはばまれたりして、前半23分まで無得点という不振が痛かった。

茨城は、第1回（昭33）に優勝、第5回（昭37）に準優勝して以来、久々の上位進出である。（斎藤）

イーグルス、多彩な攻撃

▽同決勝
大阪イーグルス 26（9－6 17－5）11 スワロー兵庫

得	【兵庫】		【大阪】	得
0	上野	GK	本田	0
0	松野	GK		
1	北山	FP	櫻塚	5
0	大原	FP	高橋	2
0	浜野	FP	福井	6
4	畑	FP	早川	2
1	木野	FP	池本	4
0	藤崎	FP	安達	2
1	黒田	FP	河原崎	0
3	松岡	FP	市田	5
1	中村	FP		
0	藤田	FP		
11	(2)	7MT	(3)	26

（審・斎藤、山内）

○……スワローは2分の7MT（畑）で先取点をあげたが、イーグルスは3分池本、5分市田で2－1、緊迫のスタートだった。このムードは15分すぎまでつづいたがイーグルスは、20分7MT（福井）、22分安達、25分池本、27分7MT（池本）と、めぐってきたチャンスを確実に活かして9－4と点差を開いた。

一方のスワローは、〝とびこみシュート〟にいささかこだわりすぎ、直線的な攻撃がカゲをひそめるなど、一本調子だった。

○……後半、スワローはすぐに中村がゲットし7－9、希望をもたせたのだが、勢いづくイーグルスは、10分までに4ゴール、ここで勝負は決まったといってよい。

両チームGKの好守がひときわ目立った。（柏葉義昭）

初の女子も大阪に栄冠

▽女子リーグ（オープン）
栃木教員 14（8－0 6－3）3 茨城教員
大阪教員 22（11－4 11－4）8 東京教員
大阪教員 6（3－4 3－2）6 栃木教員
引き分け

得	【栃木】		【大阪】	得
0	秋間	GK	原	0
		GK	本田	0
0	戸沢	FP	北村	2
0	橋田	FP	古川	3
0	長島光	FP	中村	0
2	永田	FP	高嶋	0
1	渡辺	FP	石川	0
1	大工原	FP	玉岡	0
0	小藤	FP	岡	0
1	武野	FP	阪本	0
1	長島貴	FP	福田	1
		FP	花谷	0
6	(1)	7MT	(2)	6

（審・鈴木、田中）

茨城教員 14（5－3 9－6）9 東京教員

得	【東京】		【茨城】	得
0	渡辺	GK	増田	0
4	韮沢	FP	大村	1
2	堀江	FP	沢辺	1
0	岡田	FP	綿引	1
0	立川	FP	押見	0
2	継	FP	小貫	8
1	山本	FP	小室	0
		FP	小林	0
		FP	大関	3
9	(0)	7MT	(1)	14

（審・遠藤、田村）

東京教員 8（3－2 5－5）7 栃木教員
大阪教員 7（3－1 4－2）3 茨城教員

【順位】①大阪教員2勝1分②栃木教員1勝1分1敗③茨城教員1勝2敗（得失点差マイナス10）④東京教員（マイナス18）

福島教員勝つ

敗者トーナメント

慣例となっている男子1・2回戦敗者によるコンソレーショントーナメントは、12チームが参加、福島教員が勝った。

▽1回戦（3試合）
大分県教職員団 32－14 長野教員ク
群馬教員 26－15 新潟教員ク
福島教員 32－15 長崎教員

▽2回戦
愛教ク 23－16 大分県教職員団
G・スワロー 24－15 秋田教員
福島教員 26－15 群馬教員
大阪教員ク 22－15 岡山教員

▽3回戦
愛教ク 18－14 G・スワロー
福島教員 21－10 大阪教員ク

▽同4回戦（＝決勝）
福島教員 12（7－5 5－6）11 愛教ク

ベストセブンに本田選手ら

全日本教職員連盟は、大会終了後、ベストセブン（男子）を次のとおり決め発表した。

▽GK本田洋（大阪イーグルス）
▽FP 早川清孝、安達修三、福井稔（以上大阪イーグルス）、畑憲作、松岡猛（以上スワロー兵庫）池田信夫（茨城教員）

大同製鋼（愛知）連続優勝成る

本田技研2位に

全日本実業団 男子の部

第14回全日本実業団選手権男子の部は7月11日から15日までの5日間、熊本市体育館で行われた。

参加した8チームは、いずれも国内の代表的強豪。予選リーグから、激しい内容の試合がつづいたが、今シーズン国内タイトル独占を目指す大同製鋼（愛知）が、最終戦・大崎電気の粘りに苦しみながらも引き分けにもちこんで2勝1分の成績を残し、2連勝を飾った。大同製鋼は6月のNHK杯優勝についで二冠目。

しかし、昨年末からつづいていた公式戦連勝記録は「36」でストップした。

女子の部は本誌既報のとおり大洋デパート（熊本）が6連勝をとげている。

本田技研三景を制す

◇予選リーグA組

大同製鋼（愛知） 26（13－6／13－2）8 セントラル自動車（神奈川）

本田技研（三重） 19（12－2／7－9）11 三景（東京）

三景 24（11－4／13－5）9 セントラル自動車

（この記録は順位リーグに適用）

大同製鋼 20（13－5／7－3）8 本田技研

得	【本田】		【大同】	得
0	戸田	GK	柳川兄	0
0	市川	GK	倉谷	0
0	勝田	FP	野田	3
3	佐藤	FP	藤中	3
0	田上	FP	加藤	1
1	新実	FP	中井	9
1	末岡	FP	松原	1
2	長谷川	FP	花輪	3
1	岩木	FP	柳川弟	0
0	宮川	FP	北村	0
0	三浦	（審・板橋 宍戸）	守田	0
0	加藤		更谷	0
8	(1)	7MT	(0)	20

（この記録は決勝リーグに適用）

本田技破 23（12－5／11－4）9 セントラル自動車

大同製鋼 27（12－10／15－3）13 三景

【順位】 ①大同製鋼②本田技研＝以上決勝リーグへ③三景④セントラル自動車

○……大同がずば抜けた力をみせた。期待された本田技研も、前半10分2－3、後半7分5－8として僅かにスタンドをわかせただけ。三景も10分までに6－2と引きはなされたうえ、そのあと連続6ゴールをつみ重ねられて完敗。

○……好勝負だったのは本田×三景。互角の立ちあがりから、三景は15分すぎ、佐々木、内藤らのゲットで、わずかづつ本田を引きはなし、26分には9－5とした。

しかし、このあと2本の7MTで、7－9と迫られたのが、結果的には、本田に立ち直りのきっかけを与えたことになる。

○……後半開始直後、三景は佐々木が反則退場、このスキを本田は逃さず、佐藤、田上で9－9の同点、さらに、4、6分佐藤の好シュートで一気の逆転を成功させ、その後も攻撃の手をゆるめず、23分には16－9と開く会心の試合運びをみせた。

三景は、リードされたあと、前半に示したち密な攻撃がなく、24分の7MTが後半の初ゲットというろ低調。小技（こわざ）はむしろ三景にブがあったが、破壊力では本田がしのいだ。

セントラル自動車は、羽毛田－吉沢のコンビで健斗したが、3試合とも一ケタの得点におさえこまれた。

大崎、大接戦で湧永破る

沖重を軸に健斗の三菱レ

◇同B組

湧永薬品（大阪） 25（12－10／13－9）19 三菱レイヨン大竹（広島）

大崎電気（埼玉） 25（11－5／14－2）7 日新製鋼呉（広島）

大崎電気 18（8－4／10－7）11 三菱レイヨン大竹

湧永薬品 25（11－8／14－8）16 日新製鋼呉

三菱レイヨン大竹 16（9－7／7－5）12 日新製鋼呉

（この記録は順位リーグに適用）

大崎電気 14（4－5／10－8）13 湧永薬品

得	【湧永】		【大崎】	得
0	今井	GK	下里	0
		GK	岩下	0
4	市原	FP	東	3
1	戸田	FP	荒井	4
1	木野	FP	佐藤章	0
7	高橋	FP	谷口	0
0	田中	FP	飯田	3
0	森	FP	沢田	2
0	菅	FP	坂口	2
0	杉野	（審・森 島田）	佐藤文	0
0	松岡		新田	0
0	大山		前淵	0
13	(3)	7MT	(4)	14

（この記録は決勝リーグに適用）

【順位】 ①大崎電気②湧永薬品＝以上決勝リーグへ③三菱レイヨン大竹④日新製鋼呉

○……予想どおり大崎×湧永のトップ争い。最終戦で顔を合せた両者は、大崎が好スタートを切った。荒井で先制した大崎は、東が追加の2ゴールをあげるなどして8分4－1。湧永は10分すぎから調子をつかみ18分5－5のタイとしたのだが、どうしても先手がとれない。逆に大崎は25分沢田、28分7MT（荒井）で再び2点のリードを奪い優位を守った。

○……後半は互いに慎重さのあまり、10分まで1点づつをスコアしたのみだったが、湧永は12分木野で11－11としたあと、15分高橋の

ゲットでこの試合初めて先制した。

こうなると、湧永有利に思われたが、大崎は18分7MT（飯田）でタイにもちこみ、23、25分の2回坂口が俊敏なプレーで連続2点をとる殊勲。残り5分が大きなヤマ場となり、湧永必死の反撃は27分高橋の独走に実ったが、大崎は辛くもそのあとボールをキープ、14－13で逃げ切った。

勝負への執着が昂じていささかラフプレーが目立ったのは残念で、また、後半は、トップチーム同士にしては消極的な動きで豪快さに乏しかった。

○……三菱レ大竹の試合ぶりはなかなかだ。37才のベテラン・沖重を軸に大江、善本、山川らが鋭い攻撃をみせ、大崎、湧永に最後まで息をぬかさせなかったのはみごとである。

日新製鋼呉は緒戦・大崎に大量点を奪われたものの、湧永戦はもちなおし、後半12分には14－16と追いこむ善戦だった。

○……A、B組ともこれまでの大会のような実力差歴ぜんというゲームは少くなり、中堅チームの向上が目立った。

4強への進出を狙うつばぜりあいこそ、実業団球界を名実ともに国内のトップゾーンへつなぐ近道といえる。

本田技研の健斗はこの大会を盛りあげた。（本田一大崎戦，本田，新実のシュート＝光島磯雄氏撮影）

長谷川（本田）逆転シュート

◇決勝リーグ

本田技研 15（9－7、6－7）14 大崎電気

得	【本田】		【大崎】	得
0	戸田	GK	下里	0
0	市川	GK	岩下	0
0	勝田	FP	飯田	5
4	佐藤	FP	沢田	4
3	田上	FP	東	3
5	新実	FP	佐藤章	0
0	末岡	FP	荒井	1
3	長谷川	FP	坂口	1
0	岩本	FP	谷口	0
0	宮川	FP	前淵	0
0	三浦	FP	新田	0
0	加藤	FP	佐藤文	0
15	(2)	7MT	(1)	14

（審・大宮、松尾）

○……本田技研のすばらしい試合ぶりが印象的だった。前半2点のリードを後半もり返され、20分すぎの連続3失点で13－14と苦境に立った本田は28分巧妙なパスプレーから長谷川が起死回生の同点シュート、時間切れ寸前につかんだチャンスを、左サイドから再び長谷川がたたきこんで逆転に成功した。これまでの本田なら、終盤1点リードされたところで投げだしていたのではないか。

○……前半、本田は20分4－4から、新実の連続4ゴールなどで優位に立ったが、大崎も後半に入ると、進境いちじるしい左腕・沢田の好プレーや飯田、東らベテランの巧技で追いあげるなど、好内容となった。

本田の気力が大崎を制したといえるが、昨シーズン無冠に終った大崎の復調も、ハンドボール界にとってはたのもしいことであろう。

大同製鋼 25（12－9、13－7）16 湧永薬品

得	【大同】		【湧永】	得
0	柳川兄	GK	今井	0
2	野田	FP	木野	5
8	花輪	FP	戸田	7
5	藤中	FP	森	3
3	加藤	FP	市原	1
6	中井	FP	大山	0
0	松原	FP	杉野	0
1	柳川弟	FP	田中	0
0	北村	FP	松岡	0
0	守田	FP	菅	0
0	更谷	FP		
25	(4)	7MT	(4)	16

（審・宍戸、坂橋）

○……前半なかばまでは一進一退六たび同点という接戦を演じていたが、前半19分大同が7MT（花輪）を口火に連続得点しはじめてからは、地力の差がはっきりしてしまった。

NHK杯（6月、大阪）の雪じょくを狙う湧永は、再三先行しながら主導権を握るまでにいたらず、このあたりに、今季両チームの戦力をうかがえた。

○……大同は、いったんペースをつかむと、すさまじいばかりの迫力をみせる。特に花輪、中井、藤中らの力感あふれる攻撃はすばらしい。これに加えて要所で得た7MTを4度にわたって決めたのだから、ふりかえってみれば〝完勝〃である。しかし、試合中、それを感じさせなかったのは、もう一歩もアトに引けない湧永の気力があったからだろう。

予想外の大差で結着はついたが最後まで見応えのある好試合だった。

波に乗る本田、2位に

本田技研 16（12－9、4－5）14 湧永薬品

得	【本田】		【湧永】	得
0	戸田	GK	今井	0
0	市川	GK		
1	勝田	FP	高橋	5
4	佐藤	FP	森	1
2	長谷川	FP	戸田	1
4	田上	FP	大山	3
4	新実	FP	市原	2
1	末岡	FP	木野	2
0	岩本	FP	杉野	0
0	宮川	FP	松岡	0
0	三浦	FP		
0	加藤	FP		
16	(1)	7MT	(1)	14

（審・島田、森）

○……波にのる本田はこの日もすばらしい攻撃力で湧永を先制、12

〔決勝リーグ〕

	同	本	崎	湧	P	得	失
①大同製	…	(○)	△	○	5	60	39
②本田技	(●)	…	○	○	4	39	48
③大崎電	△	●	…	(○)	3	43	43
④湧永薬	●	●	(●)	…	0	43	55

〔5～8位リーグ〕

	三	菱	日	セ	P	得	失
⑤三　景	…	○	○	(○)	6	72	40
⑥三菱レ	●	…	(○)	○	4	52	51
⑦日新呉	●	(●)	…	○	2	50	49
⑧セ自動	(●)	●	●	…	0	33	67

分には7—4と開き、その後も新実、田上らが加点、田中を負傷で欠き、もう一つものまとまりがない湧永を圧した。
　ところが、後半になると本田は40秒佐藤のゲットで13—9としたあと、パタリと得点がとまり、このスキを湧永にじっくり攻めこまれた。
　15分11—14から湧永は18分市原、22分7MT（高橋）、26分戸田でついに14—14とした。
○……残り4分、決め手なく終るかに思えたが、本田は28、29分たてつづけに佐藤がロングをとばして決め、湧永を倒した。
　本田は、後半なかば、動きの鈍くなったのを悟って、消極的な攻めに変えたのが苦戦の因。ここを思い切りよくプレーすれば、これほど苦労せずにすんだろう。
○……それにしても、この大会でみせた本田技研の試合ぶりは鮮やかであった。大崎単独黄金時代から、大崎—湧永の対立、そこへ大同の割りこみでビッグスリー時代を招いた実業団球界だが、本田が一気に上位へかけあがったことで「4強激突」という興味満点の〝新時代〟を開幕させた。今後の成りゆきが注目される。
　本田が、全日本レベルの大会で2位となったのは、昭和36年部創立以来初めてのこと。

歴代優勝チーム

①	昭35	大崎電気（11人制）
②～⑩	昭36～昭44	大崎電気
⑪	昭45	湧永薬品
⑫	昭46	大崎電気
⑬	昭47	大同製鋼
⑭	昭48	大同製鋼

（注）昭44以降はリーグ戦制を採用

大崎、終了直前までリード

大同製鋼 15（6—8、9—7）15 大崎電気
引き分け

得	【大崎】		【大同】	得
0	下里	GK	柳川兄	0
0	岩下	GK	倉谷	0
4	飯田	FP	加藤	2
1	東	FP	花輪	3
2	佐藤章	FP	中井	1
0	佐藤文	FP	野田	4
0	坂口	FP	藤中	3
3	荒井	FP	松原	2
3	沢田	FP	柳川弟	0
2	前淵	FP	北村	0
0	新田	FP	清崎	0
0	谷口	FP	守田	0
15	(1)	7MT	(1)	15

（審・大宮、松尾）

○……大同が敗れると大崎・本田3者同率というケース。しかし、大同はこの日まで得失点差21と断然優位で、その2連勝は確定したも同然だった。
　しかし、過去10回の優勝を誇る大崎にしてみれば、易々と引きさがるわけにはいかない。その斗志が、前半の出足につながった。先制点こそ3分藤中に奪われたが、5分東でタイにしたあと、3分間に荒井、前淵、佐藤章とたたみかけ4—1、その後のチャンスも巧みに活かしてリードをつづけた。
○……大同の苦境を切り開いたのは野田。後半5分8—9から、すばらしい切りこみで2分間に連続3ゴール、あっという間に11—9と立ち場を変えさせてしまった。
　しかし、気力にみちた大崎は、すぐに追いつき、一進一退から21分沢田のゴールで再び先行した。
○……互いにチャンスをつぶしあって残り3分、大同は27分松原で14—14。大崎は1分後、飯田が中央からロングシュートを決め15—14、勝負あったかにみえた。
　ところが、粘りつく大同は29分10秒、加藤がポストから貴重な同点シュートを決め、引き分けにもちこんだ。
○……たがいに全力をふりしぼっての大試合で、ハンドボールのだいご味をファンに満きつさせた。
　大同は、昨年12月・全日本総合最終日・大崎電気戦に勝って以来つづけていた連勝記録はこれで終止符が打たれ、今後は「不敗記録」に焦点が移る。

三景、地力示して5位に

◇5～8位決定リーグ

三菱レイヨン大竹 22（11—7、11—5）12 セントラル自動車
三景 21（11—7、10—10）17 日新製鋼呉
日新製鋼呉 21（11—7、10—5）12 セントラル自動車

得	【セ自】		【日新】	得
1	片桐	GK	三田	0
0	吉賀	GK	中野	0
0	羽毛田	FP	沖谷	0
0	加藤	FP	松木	4
2	渡辺	FP	村川	0
0	真木	FP	吹上	4
2	布施	FP	下茂	8
5	吉沢	FP	正岡	0
2	中村	FP	吉田	2
		FP	中川	1
		FP	下西	0
		FP	越智	2
12	(2)	7MT	(0)	21

（審・谷脇、大宮）

三景 27（12—6、15—8）14 三菱レイヨン大竹

得	【三景】		【三菱】	得
0	西牧	GK	藤本	0
0	佐藤	GK	中村	0
3	佐々木	FP	田中	1
6	加藤	FP	沖重	2
3	高梨	FP	大江	8
3	内藤	FP	喜本	1
6	植田	FP	山川	1
0	喜田	FP	岡村	0
5	上平	FP	中島	0
1	高森	FP	池田	0
		FP	末広	0
		FP	岩本	1
14	(2)	7MT	(0)	14

（審・宍戸、板橋）

森・島田氏に〝優秀審判賞〟

　全日本実連は大会終了後、ベスト・セブンをはじめ9項目の表彰者を発表した。このうちジュニアベスト・セブンは本大会に出場した選手のうち昭和29年4月1日以降に生まれた者のなかから優秀選手を選んだもの。また、優秀審判員賞は全国大会では史上初めての試みである。

▼最高殊勲選手　中井武三（大同製鋼）

▼ベスト・セブン

▽GK
下里　敏彦（大崎電気）④

▽FP
中井　武三（大同製鋼）③
藤中　憲二（大同製鋼）③
高橋　益夫（湧永薬品）初
木野　実（湧永薬品）④
飯田　誠行（大崎電気）②
新実　俊夫（本田技研鈴鹿）初

▼ジュニア・ベストセブン

▽GK
西牧　健二（三景）

▽FP
柳川　実（大同製鋼）
坂口　健二（大崎電気）
田中祐次郎（湧永薬品）
山川重徳（三菱レイヨン大竹）
吉田　義憲（日新製鋼呉）
吉沢益男（セントラル自動車）

▼得点王　高橋　益夫　26（4試合）
▼優秀GK賞　柳川　清（大同製鋼）
▼アシスト賞　木野　実
▼優勝監督賞　中浜　大輔（大同製鋼）
▼優秀監督賞　松岡　富夫（本田技研）
▼優秀審判賞　森　豊夫　島田　秀四

安藤氏、国際審判員会議へ

【速報】日本協会は8月25日の月例常務理事会で、10月7日からブルガリアで開かれる国際審判員会議の首席代表として安藤純光氏（日本協会審判部長）の派遣を決めた。

男女とも大体大優勝

西日本学生

第13回（女子第4回）西日本学生選手権は7月18日から21日までの4日間大阪・東淀川体育館と豊中市々民体育館に男子19、女子6校が参加して行われた。

男子はトーナメントで優勝が争われ、1回戦で関西2位・大経大が名城（東海）の早いつぶしと、巧みな攻めにあい、最後までペースをつかめず早々と敗退、準決勝では九州産大（九州）が中京（東海）を振り切った。中京は、同志社（関西）を1点差で降しており、地方勢の活躍が目立った。

関西から唯一校ベストフォアへ進んだ大体大が、結局、初めて決勝進出の九州産大を、危気ない攻守で制し、3年連続3度目の優勝を飾ったが、近来になく波乱の多い大会であった。

女子は一次戦（3カード）の勝者が決勝リーグを行った。中四国から初参加の山口大が、田中（徳山高出）の活躍で、大体大(関西)を破る番狂せがあり、緒戦で山口大を破った武庫川女（関西）が有利とみられたが、最終戦の大体大×武庫川女戦で大体大が奮起、8点差で快勝して三すくみとなり、得失点差で大体大が初優勝をさらった。

▽男子1回戦（3試合）

近畿大（関西）20（11−5、9−9）14 山口大（中四国）

九州産大（九州）28（8−4、20−9）13 愛知教大（東海）

中京（東海）30（14−2、16−2）4 関大（関西）

▽同2回戦

甲南（関西）39（16−2、23−6）8 姫路工大（関西）

近畿大 21（9−9、12−9）18 追手門学院（関西）

大阪体大（関西）42（15−6、27−2）8 大阪市大（関西）

名城（東海）20（10−5、10−7）12 大阪経大（関西）

九州産大 35（14−5、21−9）14 大阪歯大（関西）

中京 38（22−1、16−10）11 桃山学院（関西）

同志社（関西）40（22−6、18−11）17 広島修道大（中四国）

大阪教大（関西）不戦勝 京都産大（関西）

▽同準々決勝

中京 12（5−4、7−7）11 同志社

九州産大 36（22−2、14−4）6 大阪教大

名城 25（12−1、13−4）5 近畿大

大阪体大 27（18−5、9−7）12 甲南

▽同準決勝

大阪体大 15（8−3、7−1）4 名城

九州産大 11（7−2、4−7）9 中京

得	【大体】		【名城】	得
0	宍倉	GK	高橋	0
0	神谷	GK	杉浦	0
1	中村	FP	松井	1
2	中出	FP	石塚	1
4	野波	FP	森	0
2	福永	FP	長塚	0
1	西上	FP	杉山俊	0
0	坂本	FP	佐藤	1
3	丸井	FP	田中	1
2	山内	FP	山本	0
0	宇尾野	FP	杉山孝	0
0	藤田	FP	岩田	0
15（2）		7MT		（1）4

（審・島崎、田中）

得	【九産】		【中京】	得
0	小島	GK	福井	0
0	松高	GK	千田	0
1	大塚	FP	小川	2
2	久保	FP	成田	0
2	磯口	FP	夏目	1
0	柳井	FP	梶村	2
3	中馬	FP	伊賀	0
1	青柳	FP	布垣	3
2	井上	FP	岸見	0
0	藤春	FP	三宅	0
0	満重	FP	佐藤	1
0	久松	FP	野田	0
11（1）		7MT		（1）9

（審・保田、森）

▽同3位決定戦

中京 22（10−3、12−6）9 名城

▽同決勝

大阪体大 21（9−4、12−7）11 九州産大

得	【大体】		【九産】	得
0	宍倉	GK	小島	0
0	神谷	GK	松高	0
10	丸井	FP	大塚	2
3	山内	FP	久保	0
2	中村	FP	磯口	1
1	中出	FP	柳井	0
2	福永	FP	中馬	6
1	野波	FP	青柳	0
0	坂本	FP	井上	2
1	宇尾野	FP	藤春	0
0	藤田	FP	満重	0
1	根本	FP	久松	0
21（3）		7MT		（1）11

（審・橋谷、島崎）

武庫川女、掌中の優勝逸す

▽女子予選ラウンド（3試合）

武庫川女（関西）7（4−0、3−4）4 岐阜大（東海）

山口大（中四国）6（1−0、5−5）5 愛知教大

大阪体大（関西）12（5−2、7−0）2 中京（東海）

▽同決勝リーグ

武庫川女 8（2−3、6−1）4 山口大

得	【武庫】		【山口】	得
0	榎本	GK	平岡	0
1	辻	FP	田中	3
0	橋本	FP	花ケ崎	1
0	万代	FP	恵島	0
6	寺尾	FP	千々松	0
0	中川	FP	細田	0
0	倉	FP	藤原	0
0	赤尾	FP	宮崎	0
0	面木	FP		
0	谷本	FP		
1	三輪	FP		
8（1）		7MT		（0）4

（審・森、木村）

山口大 11（8−3、3−5）8 大阪体大

得	【山口】		【大体】	得
0	平岡	GK	梅谷	0
		GK	堀川登	0
8	田中	FP	堀川景	0
3	花ケ崎	FP	樋口	0
0	恵島	FP	山本	2
0	千々松	FP	高木	2
0	細田	FP	松本	0
0	藤原	FP	大谷	1
0	宮崎	FP	奥野	0
		FP	金森	1
		FP	高市	2
		FP	百田	0
11（1）		7MT		（0）8

（審・前田、島崎）

大阪体大 10（4−1、6−1）2 武庫川女

得	【大体】		【武庫】	得
0	梅谷	GK	榎本	0
0	堀川登	GK		
1	堀川景	FP	橋本	0
0	樋口	FP	万代	0
3	山本	FP	中川	0
0	高木	FP	倉	0
0	松本	FP	寺尾	1
0	大谷	FP	辻	0
3	奥野	FP	谷本	0
1	金森	FP	三輪	1
2	高市	FP	小西	0
0	百田	FP	吉田	0
10（0）		7MT		（0）2

（審・橋谷、前田）

【順位】①大阪体大（得18、失13）②山口大（得15、失16）③武庫川女（得10、失14）

名古屋で恒例の東西対抗（9月15日）

全日本学連は、9月15日午後1時30分から名古屋・愛知県体育館で行う第23回（女子第5回）全日本学生選抜東西対抗戦のメンバーを次の通り発表した。

★……東　軍……★

【男子】▽監督　安藤純光（法大監督）▽GK吉近（中大）、柴田（法大）▽FP柳、長谷川、橋本、井手、川島、村田（以上法大）、菊池、脇若（以上早大）、喜井（日体）、八日市屋（金沢工大）、北海道及び東北学連選出者は未定。

【女子】▽監督　高野亮（東女体大監督）▽GK前島（東女体大）、松井（東京教大）▽FP赤岸、篠倉、西田、高橋、橘、寺田（以上東女体大）、岩本、小林、木元、藤山、坂本、松本（以上日体）、畑中（東京教大）

★……西　軍……★

【男子】▽監督　山崎武（大体大監督）▽GK福井（中京）、宍倉（大体大）▽FP中村、福永、中出（以上大体大）、井上、大塚、中馬（以上九州産大）、成田、夏目（以上中京）、穂積、津川（以上大阪経大）、佐藤（名城）、大原（京都産大）、牧野（同志社）

【女子】▽監督　樫塚正一（武庫川女大）▽GK佐々木（中京）、榎本（武庫川女）、平岡（山口大）、▽FP奥野、山本恵、高市（以上大体大）、中川、寺尾、橋本（以上武庫川女）、大田、竹内（以上甲子園短大）、山田（愛知教大）、鈴木（岐阜大）、山本隆（大阪教大）、田中（山口大）

北大が3連勝飾る

北海道地区大学体育大会

第20回北海道地区大学体育大会ハンドボール競技は7月12、13の両日札幌・北大体育館に6校が参加して行われた。

3校づつ2組の予選リーグで各1位となった北見工大と北大が優勝を争い、攻守に一日の長ある北大が快勝、3年連続優勝を飾り、3位は新星旭川教大の多彩な攻撃をはねのけた釧路教大。

▽同A組
北見工大　17－10　釧路教大
釧路教大　23－12　小樽商大
北見工大　23－10　小樽商大

▽同B組
北海道大　35－8　室蘭工大
旭川教大　24－18　室蘭工大
北海道大　27－12　旭川教大

▽5位決定戦
室蘭工大　18（7－8　11－4）12　小樽商大

▽3位決定戦
釧路教大　16（8－6　8－7）13　旭川教大

▽決勝
北海道大　17（8－3　9－6）9　北見工大

ブロック高校選手権

第16回　近畿高校

◇7月21～23日◇滋賀県立体育館、皇子山体育館◇参加、男子22、女子17

男子は実力伯仲の接戦となり、予断を許さなかったが、守備力に秀れた佐野工（大阪）と、準々決勝で前年優勝の都島工（大阪）を破った鈴蘭台（兵庫）が勝ち残り前半互角から、後半、佐野工の速攻がさえて快勝、初優勝した。大阪府代表の優勝は2年連続7度目。

女子は、前年優勝の春日丘（大阪）が序盤で姿を消すなど波乱ぶくみだったが、有力とみられた大谷（大阪）と甲子園学院（兵庫）は巧みに激戦を切りぬけて進出、一転二転の好試合を演じた末、甲子園が後半、貴重な決勝点をあげ2年ぶり2度目の栄冠を手にした兵庫県代表の優勝は2年ぶり3度目。

▽男子1回戦
伏見工（京）11－4彦根東（滋）
鈴蘭台（兵）12－11鳳（大）
明石（兵）15－12安曇川（滋）
佐野工（大）13－5一条（奈）
嵯峨野（京）44（延）9新宮（和）
生駒（奈）19－3那賀（和）

▽同2回戦
都島工（大）10－6伏見工
鈴蘭台 9－7添上（奈）
明石 13（延）11堀川（京）
桃山学院（大）15－8御坊商工（和）
佐野工 11－4八幡工（滋）
武庫工（兵）13－4嵯峨野
生駒 11－4初芝（大）
平安（京）6－5高島（滋）

▽同準々決勝
鈴蘭台　10（5－3　5－2）5　都島工
桃山学院　12（5－3　2－4　……　4－0　1－1）8　明石
佐野工　10（6－2　4－2）4　武庫工
生駒　12（3－1　9－1）2　平安

▽同準決勝
鈴蘭台　12（5－4　7－7）11　桃山学院
佐野工　8（2－3　6－3）6　生駒

▽同河勝
佐野工　12（5－5　7－2）7　鈴蘭台

▽女子1回戦（1試合）
彦根西（滋）15（分）15一条（奈）
抽せんで彦根西高の勝ち。

▽同2回戦
明徳商（京）7－2御坊商工（和）
甲子園学院（兵）12－7守山女（滋）
住吉学園（大）10－3嵯峨野（京）
高島（滋）9－3愛泉（大）
枚方（大）7（延）6添上（奈）
神戸女商（兵）7－5粉河（和）
大谷（大）10－2精華女（京）
彦根西 8－7春日丘（大）

▽同準々決勝
甲子園学院　7（4－3　3－2）5　住吉学園
大谷　9（5－0　4－5）5　神戸女商
高島　5（4－1　1－2）3　枚方
彦根西　11（4－2　7－1）3　明徳商

▽同準決勝
甲子園学院　13（5－4　8－2）6　彦根西
大谷　10（3－0　7－1）1　高島

▽同決勝
甲子園学院　11（6－6　5－4）10　大谷

大分東、男女優勝成らず

第23回　九州高校

◇7月23、24日◇福岡・小倉西高球技場◇参加、男16、女16

男女とも、インターハイの優勝候補にあげられている強豪が揃い、好内容となった。

男子はホームコートの小倉西（福岡）が、準決勝で鶴崎工（大分）に苦しんだ以外は楽な試合をつづけて2連勝。福岡代表の優勝は2年連続6度目。

女子は、沖縄特別国体（5月）決勝の再現となり、大分東が前半、

優位に立ち、終盤の熊木女商の反撃をおさえた。大分東の優勝は6年ぶり2度目。大分代表の優勝も同じ。大分東の男女優勝は惜しくも成らなかった。

▽男子1回戦

大分東(大)23—9マリスト(熊)
西南学院(福)22—7佐賀商(佐)
久留米工(福)18—15日南工(宮)
口加(長)23—7加治木(鹿)
鶴崎工(大)30—10鹿児島工(鹿)
鹿町工(鹿)18—15熊本市商(熊)
小倉西(福)28—5宮崎工(宮)
南部農林(沖)15—13佐賀農(佐)

▽同準々決勝

大分東 15（8—6 7—4）10 西南学院
久留米工 20（12—8 8—5）13 口加
鶴崎工 29（15—7 14—6）13 鹿町工
小倉西 20（12—1 8—2）3 南部農林

▽同準決勝

大分東 17（10—6 7—9）15 久留米工
小倉西 14（6—6 8—7）13 鶴崎工

▽同3位決定戦

久留米工 20（11—10 9—8）18 鶴崎工

▽同決勝

小倉西 22（14—3 8—5）8 大分東

▽女子1回戦

小林商(宮)17—3福岡女(福)
熊本女商(熊)16—7別府青山(大)
国分実業(鹿)10—4神埼農(佐)
佐世保女(長)8—7筑紫女(福)
財部(鹿)9—4佐賀女(佐)
古賀(福)8—6泉ケ丘(宮)
大分東(大)17—7浦添(沖)
熊本市立(熊)10—8島原農(長)

▽同準々決勝

熊本女商 11（2—4 9—3）7 小林商
国分実業 17（5—1 12—4）5 佐世保女
財部 12（4—0 8—1）1 古賀
大分東 14（8—6 6—5）11 熊本市立

▽同準決勝

熊本女商 13（9—5 4—2）7 国分実業
大分東 21（14—1 7—5）6 財部

▽同3位決定戦

財部 9（6—3 3—2）5 国分実業

▽同決勝

大分東 10（4—4 6—3）7 熊本女商

大同の名古屋市が5連勝

5大都市大会

第24回5大都市体育大会ハンドボール競技（注・ハンドボールは12回目）は、7月21、22日の両日京都・大谷大体育館でリーグ戦により行われ、全日本実業団優勝の大同製鋼（愛知）単独による名古屋市が3勝1分で大阪市と並びながら、得失点差で優り5年連続優勝した。

名古屋市（大同製鋼）19（8—9 11—10）19 大阪市（選抜）
神戸市（選抜）24（12—13 12—6）19 京都市（選抜）
大阪市 31（19—7 12—10）17 横浜市（日本発条）
名古屋市 29（14—8 15—10）18 京都市
横浜市 19（6—9 13—10）19 神戸市
引き分け

大阪市 27（16—3 11—6）9 京都市
名古屋市 29（17—4 12—4）8 横浜市
大阪市 27（10—15 17—4）19 神戸市
横浜市 19（11—3 8—7）10 京都市
名古屋市 29（14—7 15—4）11 神戸市

【順位】①名古屋市3勝1分（得失点差50）②大阪市3勝1分（40）③神戸市・横浜市1勝1分2敗⑤京都市4敗

○……ヨーロッパなどで盛んに行われるインター・シテイも、国内で本格的なのはこの大会だけ。

参加各都市で有力実業団が活動しているため、年毎に内容も充実、今大会は、いきなり名古屋と大阪が顔を合せ、シーソーゲームを演じて球趣をもりあげた。

大同製鋼を送りこんだ名古屋に対し、大阪は湧永薬品勢にオリンピック選手の有永（大阪福島ク）を補強。予想どおり壮烈なゲームとなり、後半、大阪は粘り強い攻撃で互角としたあと残り3分で1点のリードを奪った。

昨年12月以来、不敗を誇る大同の記録（この大会まで37戦36勝1分）がストップされるかと館内はにわかにわきたったが、タイムアップ直前、大同は野田のゲットで辛くも引き分けにもちこんだ。

○……両雄が開幕戦で星を分けたことから、優勝争いの興味は、得失点差のかけひきにかかった。

3試合を終って、ともに32で五角、最後の神戸戦のスコアに注目が集った。大阪が、神戸の中村、松岡（スワロー兵庫）、林（元大崎電気）らの攻撃に追われ8点差で終ったのに比べ、名古屋は18点差をつけて快勝、優勝を決めた。これで名古屋は5連勝、各開催都市でその強さを誇ったことになる。

（藤本昇・大会審判長）

三春台ク、東花クが勝つ

各地の記録

第3回関東クラブ選手権は7月21、22日の両日、群馬県・前橋商高球技場に男子8、女子6チームが参加して行われた。

トーナメントによる男子は、予想どおり2連勝を狙う三春台ク（神奈川）と、第1回の覇者AOK栃木（栃木）の決勝となり、三春台クが尾島、小石川らの活躍で粘るAOKを振り切った。

女子は、第1ラウンド（3カード）の勝者によって決勝リーグが争われ、関東学生OGを主力とした東花ク（東京）が秀れた攻撃力で快勝、初の栄冠を握った。去年のインターハイ優勝メンバーで固めた深谷女OG（埼玉）は3位に終った。

▽男子1回戦（＝準々決勝）

AOK栃木（栃木）26（12—9 14—6）15 日川ク（山梨）
東京重機愛好会（東京）23（12—8 11—6）14 前商OBク（群馬）
三春台ク（神奈川）25（13—2 12—3）5 佐原ク（千葉）
新治ク（茨城）18（9—9 9—5）14 霞会（埼玉）

▽同準決勝

AOK栃木 20（11—5 9—7）12 東京重機愛好会
三春台ク 23（9—7 14—4）11 新治ク

▽同決勝（＝テーブルは次頁）

三春台ク 16（8—6 8—3）9 AOK栃木

▽同敗者トーナメント1回戦

日川ク 34—12 霞会
前商OB 17—15 佐原ク

【栃木】	得
GK 小林	0
GK 菊地政	0
FP 山田	2
FP 落合	0
FP 宮田	5
FP 石塚	1
FP 新井	0
FP 左藤	1
FP 河内	0
FP 桜井	0
FP 小竹	0
FP 菊地美	0

（審・小林 町田）

得	【三春】
0	GK 柳下
0	GK 井上
4	FP 尾島
2	FP 大山
2	FP 小石川
4	FP 武藤
0	FP 笹尾
3	FP 植木
1	FP 平元
0	FP 長谷川
0	FP 景山
0	FP 宮代

16（3）7MT（0）9

▽同決勝
前商OB 17－14 日川ク

▽女子第1ラウンド（3試合）
前橋ピジョンズ（群馬） 9（5－4 4－3）7 水郷ク（千葉）
東花ク（東京） 13（5－2 8－1）3 麻生高OG（茨城）
深谷女OG（埼玉） 9（2－3 7－3）6 全神奈川

▽同決勝リーグ
東花ク 16（7－6 9－2）8 前橋ピジョンズ

【前橋】	得
GK 野辺	0
GK 大工原	0
FP 狩野	2
FP 細野	3
FP 和佐田	0
FP 小比木	0
FP 大島	2
FP 池谷	0
FP 新井	0
FP 今井	1

（審・中沢 斎藤）

得	【東花】
0	GK 佐藤
1	FP 山口
2	FP 韮沢
3	FP 堀江
4	FP 岡田
1	FP 渡辺
1	FP 継
4	FP 大西
0	FP 和智

16（0）7MT（1）8

前橋ピジョンズ 18（13－5 5－4）9 深谷女高OG
東花ク 15（9－1 6－3）4 深谷女高OG
【順位】①東花ク②前橋ピジョンズ③深谷女高OG

▽同敗者（2部）リーグ
麻生高OG 7－5 水郷ク
全神奈川 8－7 水郷ク
麻生高OG 8（分）8 全神奈川
【順位】①麻生高OG②全神奈川③水郷ク

海自第3術科校3位に

▼昭和48年度千葉県実業団夏季リーグ（定期戦）（7月・千葉）

▽1部
海自4空群 21－13 海自3術校
丸善石油 15（分）15 山航空基地
海自3術校 28－17 陸自下志津
津自4空群 20－8 丸善石油
館山航空基地 14－9 陸自下志津
海自3術校 15－10 丸善石油
海自4空群 16－6 館山航空基地
丸善石油 15－9 陸自下志津
館山航空基地 10－8 海自3術校
海自4空群 19－9 陸自下志津
【順位】①海上自衛隊第4航空群4戦全勝②海自館山航空基地2勝1分1敗③海自第3術科学校2勝2敗④丸善石油1勝1分2敗⑤陸上自衛隊下志津4敗
【2部順位】①三井石油化学千葉4戦全勝②陸自松戸教導隊③KKヤトロン④住友千葉化学⑤航空自衛隊峯岡

国体県予選①（報告分のみ）

◇茨城▽一般男子決勝リーグ
自衛隊勝田 15－12 原子力研究所
新治ク 21－14 原子力研究所
自衛隊勝田 21－13 新治ク

◇鳥取▽一般男子1回戦
米子高専ク 17－16 フェニックス
▽同準決勝
境港市役所 24－10 米子高専ク
米子ク 26－15 鳥取三洋
▽同決勝
境港市役所 24－12 米子ク
▽高校男子1回戦
倉吉産業 13－12 米子東
倉吉東 12－11 境港工
▽同準決勝
境 13－7 倉吉産業
倉吉工 26－3 倉吉東
▽同決勝
倉吉工 22－7 境
▽同女子準決勝
倉吉西 17－1 米子南商
倉吉産業 9－5 境
▽同決勝
倉吉西 11－1 倉吉産業

◇熊本▽一般男子決勝リーグ
本渡ク 24－23 熊城会
本渡ク 22－18 トヨタ自動車
熊城会 24－23 トヨタ自動車
▽高校男子準々決勝
水俣工 27－10 東海二
御船 26－23 菊池農
済々黌 16－10 鎮西
一工・市商 34－10 九州学院
▽同準決勝
水俣工 28－9 御船
一工・市商 16－12 済々黌
▽同決勝
一工・市商 18－14 水俣工
▽同女子準々決勝
熊本市立 30－4 鎮西
鹿本商工 13－8 九女
天草 20－4 尚絅
女商 20－3 菊池農
▽同準決勝
熊本市立 13－5 鹿本商工
女商 11－4 天草
▽同決勝
女商 14－12 熊本市立

中学大会記録

◇岩手 第20回県中学総合体育大会（7月・盛岡市）参加、男5、女2＝ハンドボールは第2回。
▽男子1回戦（1試合）
下小路 22－8 北陵
▽同準決勝
黒岩野 23－12 下小路
大宮 15－10 水沢南
▽同3位決定戦
下小路 14－10 水沢南
▽同決勝戦
黒石野 20－4 大宮
黒石野中は2連勝
▽女子決勝
下小路 16－0 北陵
下小路中は初優勝

◇宮城 第1回県選手権（7月・仙台）参加、男3、女2
▽男子リーグ
東仙台 13－12 宮城野
宮城野 20－9 矢本一
東仙台 14－5 矢本一
▽女子決勝
上杉山 7－3 矢本一

◇岡山 全日本中学生大会県予選（5月・真備高）
▽男子準決勝
茶屋町 13－9 倉敷西
成羽 22－10 岡輝
▽同決勝
茶屋町 10－7 成羽
▽女子決勝
操南 12－4 東山

◇大阪 全日本中学生大会府予選（7月・貝塚市立一中）
▽男子準決勝
大阪市選抜 10－3 豊中二
浜寺 15－7 貝塚一
▽同決勝
大阪市選抜 12－11 浜寺
▽女子1回戦（1試合）
大阪市選抜 6－1 豊中二
▽同決勝
福泉南 4－1 大阪市選抜

【訂正】本誌前号17頁「全日本高校選手権展望」のうち、女子・熊本市立高を沖縄特別国体優勝としたのは誤りでした。

★編集後記
夏の終りが告げられる頃から、どっと各地の原稿が寄せられ、かなりのニュースが次号まわしになりました。
最近「この話を機関誌に」と心がけて下さるかたが増えています。
ユーゴ戦、ラインハウゼン戦の記事も是非！ （杉）

合繊糸・合繊混紡糸

田村紡績株式会社

社長 田 村 正 衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 0593－65－2156（代表）
郵便番号 512

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一一二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十八年八月二十五日印刷 発行所
昭和四十八年九月一日発行 日本ハンドボール協会
都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 二百円(年間購読料 千八百円)